

活用ガイド

Windows 10 IoT Enterprise 2021 LTSC

■ はじめに 4	■ 便利な機能とアプリケーション 183
本マニュアルの表記や、商標などの情報を記載しています。 最初にご覧ください。	本機にインストール、または添付されているアプリケーションの概要やインストール、アンインストール方法について記載しています。
■ 本機の機能 14	■ トラブル解決Q&A 209
本機の各部の名称やインターフェイスについて記載しています。	本機をお使いになっているときのトラブル事例や解決法について記載しています。
■ セキュリティチップ 179	■ 仕様一覧 214
セキュリティチップの概要や使い方について記載しています。	Webにて、仕様の詳細情報を公開しています。

はじめに	4	外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	72
はじめに.....	5	外部ディスプレイを接続する.....	73
本マニュアルの表記について.....	6	外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	76
「ユーザー アカウント制御」について.....	8	表示先、表示機能を設定する.....	77
基本操作.....	9	ディスプレイに合わせた設定.....	81
サポート技術情報について.....	11	Webカメラ	83
ご注意.....	12	Webカメラについて.....	84
本機の機能	14	内蔵ストレージ	85
各部の名称	15	使用上の注意.....	86
各部の名称.....	16	光学ドライブ	87
表示ランプ.....	20	使用上の注意.....	88
電源	22	外付け光学ドライブの取り付け.....	89
電源の入れ方と切り方.....	23	各部の名称と役割.....	90
電源の状態.....	25	使用できるディスク.....	91
スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	26	読み込みと再生.....	92
スリープ状態.....	28	書き込みとフォーマット.....	94
休止状態.....	30	非常時のディスクの取り出しかた.....	95
電源の設定.....	32	SDメモリーカードスロット	96
電源の自動操作.....	35	使用上の注意.....	97
省電力機能	36	セットのしかた／取り出しかた.....	99
省電力機能について.....	37	サウンド機能	100
ECOモード機能.....	38	音量の調節.....	101
ピークシフト機能.....	39	マイクの設定.....	104
Intel Speed Shift テクノロジー.....	40	音声の入出力先を変更する.....	106
バッテリー	41	AudioEngine™機能.....	107
バッテリーパック（二次電池）について.....	42	LAN機能	108
使用上の注意.....	43	本機を安全にネットワークに接続するために.....	109
バッテリーパックの取り付け／取り外し.....	45	使用上の注意.....	110
バッテリーの充電.....	48	LANへの接続.....	111
バッテリーの使い方と設定.....	49	LAN機能の設定.....	113
バッテリー・ゲージのリセット.....	51	リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能.....	115
キーボード	52	ネットワークブート機能 (PXE機能).....	118
キーの使い方.....	53	無線LAN (Wi-Fi) 機能	119
タッチパッド (NXパッド)	56	本機を安全にネットワークに接続するために.....	120
タッチパッド (NXパッド) の設定.....	57	無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関する ご注意.....	121
マウス	59	使用上の注意.....	123
マウスについて.....	60	無線LAN機能のオン／オフ.....	125
液晶ディスプレイ	61	無線LANの設定と接続.....	127
使用上の注意.....	62	USBコネクタ	133
画面表示の調整.....	63	使用上の注意.....	134
液晶ディスプレイの回転.....	64	USB機器の取り付け／取り外し.....	135
画面の回転.....	66	パワーオフUSB充電機能.....	137
表示できる解像度と表示色.....	67	メモリ	138
ディスプレイストレッチ機能.....	68	取り付け前の確認.....	139
外部ディスプレイ	69	メモリの取り付け／取り外し.....	140
使用上の注意.....	70		

メモリ変更時の確認.	146	インテル® Standard Manageability.	178
Bluetooth機能.	147	セキュリティチップ.	179
概要.	148	セキュリティチップを初期化する.	180
セキュリティに関するご注意.	149	辞書攻撃防御機能.	181
使用上の注意.	150	本機を修理に出した後.	182
Bluetooth機能のオン/オフ.	152	便利な機能とアプリケーション.	183
Bluetooth機能の設定と接続.	154	アプリケーションの種類と機能.	184
セキュリティ機能.	158	アプリケーションのインストール.	185
セキュリティ機能について.	159	アプリケーションのアンインストール.	188
スーパバイザパスワード/ユーザパスワード.	160	PC設定ツール.	191
ハードディスクパスワード機能.	161	Yamahaサウンド設定.	198
I/O制限.	162	Mic Mute Utility.	203
顔認証機能.	163	CyberLink PowerDVD.	204
指紋認証機能.	166	CyberLink Power2Go.	207
盗難防止用ロック.	169	CyberLink PowerBackup.	208
セキュリティチップ機能.	170	トラブル解決Q&A.	209
マネジメント機能.	171	はじめにお読みください.	210
マネジメント機能について.	172	トラブル事例集.	211
リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能	173	仕様一覧.	214
ネットワークブート機能 (PXE機能)	176	仕様一覧.	215
インテル vPro® プラットフォーム.	177		

はじめに

[010000-21]

▶ はじめに.....	5
▶ 本マニュアルの表記について.....	6
▶ 「ユーザー アカウント制御」について.....	8
▶ 基本操作.....	9
▶ サポート技術情報について.....	11
▶ ご注意.....	12

はじめに

[010001-00]

本マニュアルには、本機の機能についての説明、添付またはインストールされているアプリケーションの情報、サポートに関する情報、トラブル発生時などの対応方法を記載したQ&Aなど、本機を利用する上での情報が記載されています。本マニュアルに記載していないトラブル発生時などの対応方法については、「サービス&サポート」をご覧ください。

<https://support.nec-lavie.jp/>

本マニュアルは、Windowsの基本的な操作がひと通りでき、アプリケーションなどのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に記載されています。

もし、お客様がコンピューターに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などでひと通り経験してから、本マニュアルをご利用になることをおすすめします。

本機の仕様、アプリケーションについては、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。





<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>

本マニュアルの表記について

[010003-21]

本マニュアルで使用しているアイコンや記号、アプリケーション名などの正式名称、表記について、下記をご覧ください。

本マニュアルで使用しているアイコンの意味

アイコン	意味
 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、コンピューターの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
 参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれているところを示しています。
 こんなときは	困ったときにヒントになるような情報をまとめています。「トラブル解決Q&A」 - 「はじめにお読みください (P. 210)」 もあわせてご覧ください。

本マニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows 10	Windows 10 IoT Enterprise 2021 LTSC
Edge	Microsoft Edge
Windows Media Player	Microsoft® Windows Media® Player 12
CyberLink Power2Go	CyberLink Power2Go 8
CyberLink PowerBackup	CyberLink PowerBackup 2

本マニュアルで使用している表記の意味

本文中の表記	意味
本機、本体	本マニュアルの対象機種を指します。 特に周辺機器などを含まない対象機種を指す場合、「本体」と表記します。
タッチパッド	タッチパッド (NXパッド) を指します。
光学ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブを指します。書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
光学ドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブが搭載されているモデルを指します。

DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブが搭載されているモデルを指します。
DVD-ROMドライブモデル	DVD-ROMドライブが搭載されているモデルを指します。
内蔵ストレージ	SSDを指します。
ワイヤレス機能	無線LAN機能、Bluetooth機能を指します。
インテル vPro® Essentials プラットフォーム対応モデル	インテル vPro® Essentials プラットフォームに対応しているモデルを指します。 次のモデルを指します。 VKT46/X-K
内蔵指紋センサーモデル	内蔵指紋センサーが搭載されているモデルを指します。
Webカメラ搭載モデル	Webカメラが搭載されているモデルを指します。
Webカメラ (IR対応) 搭載モデル	Webカメラ (IR対応) が搭載されているモデルを指します。
SDカード、SDメモリーカード	「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を指します。特定のSDカードを指す場合、個別に記載します。
SDメモリーカードスロット搭載モデル	SDメモリーカードスロットが搭載されているモデルを指します。
CyberLink PowerDVD ディスク	「CyberLink PowerDVD ディスク」または「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
CyberLink Power2Go ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
CyberLink PowerBackup ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
PC設定ツール	「PC設定ツールUWPアプリ」と「PC設定ツールLibrary」で構成されています。書き分ける必要がある場合は、それぞれのアプリケーション名を記載します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「InsydeH20 Setup Utility」と表示されます。
「コントロール パネル」を表示し、「時計と地域」→「日付と時刻の設定」→「日付と時刻の変更」	「コントロール パネル」を表示し、「時計と地域」→「日付と時刻の設定」→「日付と時刻の変更」を順にクリックする操作を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 【Ctrl】 + 【Y】と表記してある場合、【Ctrl】を押したまま【Y】を押すことを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。
再セットアップ用メディア	「再セットアップ用ディスク」を指します。

■ 本マニュアルで使用している画面、記載内容について

- 本マニュアルに記載の図や画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本マニュアルに記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」について

[010005-01]

アプリケーションを表示したり、本機を操作したりしているときに「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、コンピューターウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」によって、本機のシステムに影響を及ぼす可能性のある操作が行われるのを防ぐため、これらの操作がユーザーが意図して行った操作によるものかを確認するためのものです。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面で管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーのパスワード入力が求められる場合があります。その場合は、画面の内容を確認し入力を行ってください。

基本操作

[010006-01]

▶ コントロールパネルの開き方.....	9
▶ アクションセンターの開き方.....	9
▶ 「設定」の開き方.....	9
▶ デバイスマネージャーの開き方.....	9
▶ BIOSセットアップユーティリティの表示方法.....	10

■ コントロールパネルの開き方

コントロールパネルでは、Windowsの各機能や画面の表示のしかた、アプリケーションのインストール/アンインストールなど、さまざまな設定ができます。


1  をクリック

2 「Windows システム ツール」 をクリック

3 「コントロール パネル」 をクリック

■ アクションセンターの開き方

アクションセンターは、よく使う機能を集めたメニューです。表示しているアプリに応じて、いろいろな機能を利用できます。

1 タスクバーの  をクリック

目的のタイルが表示されていない場合は、「展開」をクリックしてください。

■ 「設定」の開き方

「設定」では、本機の設定を変更することができます。

1  をクリック

2  をクリック


■ デバイスマネージャーの開き方

デバイスマネージャーでは、本機を構成している部品やディスプレイなどの周辺機器が正常に認識されていることを確認したり、ドライバの更新をしたりすることができます。

1  を右クリック

2 「デバイス マネージャー」 をクリック


BIOSセットアップユーティリティの表示方法

1 電源を入れ、すぐに【-/F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【-/F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

サポート技術情報について

[010007-00]

マイクロソフトで確認された問題の説明や解決方法がサポート技術情報として公開されています。
サポート技術情報を参照するには、「マイクロソフト サポート」にアクセスし該当する文書番号を入力して検索してください。

マイクロソフト サポート
<https://support.microsoft.com/>



チェック

サポート技術情報のタイトルや内容は変更される場合があります。

ご注意

[010004-21]

1. 本マニュアルの内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本マニュアルの内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、または121コンタクトセンターへご連絡ください。
4. 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
5. 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
6. 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種に限り、当社の定めるサービス対象地域から日本への引取修理サービスを行います。
サービスの詳細や対応機種については、以下のホームページをご覧ください。

<https://support.nec-lavie.jp/ultracare/jpn/>

7. 本機の内蔵ストレージにインストールされているWindowsおよび添付のメディアは、本機のみでご使用ください。(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)
8. ソフトウェアの全部または一部を著作権者の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
9. ハードウェアの保守情報をセーブしています。
10. 本製品には、Designed for Windows® programのテストにパスしないソフトウェアを含みます。
11. 本マニュアルに記載されている内容は制作時点のもので、お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。(ただし、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種については、日本への引取修理サービスを実施致します)

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の可否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC*1 does not provide maintenance service or technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for Ultracare Services can be provided with acceptance service of repair inside Japan.)

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Personal Computers, Ltd.

■ 商標および著作権に関して

Microsoft、Windows、Edge、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

インテル、Intel、Intel Speed Shift、インテル Core、およびインテル vProはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Bluetooth[®] ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。NECパーソナルコンピュータ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi CERTIFIEDロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2およびWPA3は、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。

AudioEngine[™] はヤマハ株式会社の商標です。

WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。

© NEC Personal Computers, Ltd. 2023

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

各部の名称	15
電源	22
省電力機能	36
バッテリー	41
キーボード	52
タッチパッド (NXパッド)	56
マウス	59
液晶ディスプレイ	61
外部ディスプレイ	69
Webカメラ	83
内蔵ストレージ	85
光学ドライブ	87
SDメモリーカードスロット	96
サウンド機能	100
LAN機能	108
無線LAN (Wi-Fi) 機能	119
USBコネクタ	133
メモリ	138
Bluetooth機能	147
セキュリティ機能	158
マネジメント機能	171

各部の名称

[020100-21]

各部の名称.....	16
表示ランプ.....	20

各部の名称

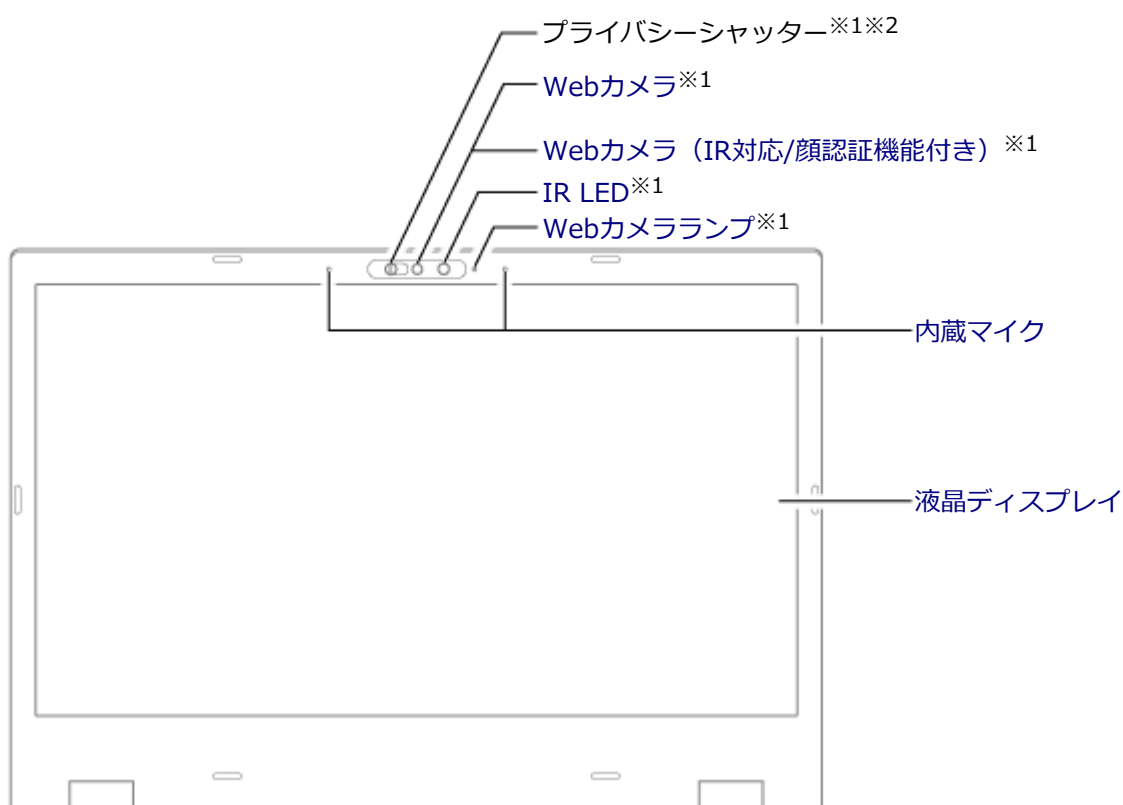
[020101-21]



メモ

- USB 3.2 Gen1はUSB 3.1 Gen1およびUSB 3.0と同意です。
- USB 3.2 Gen2はUSB 3.1 Gen2およびUSB 3.1と同意です。

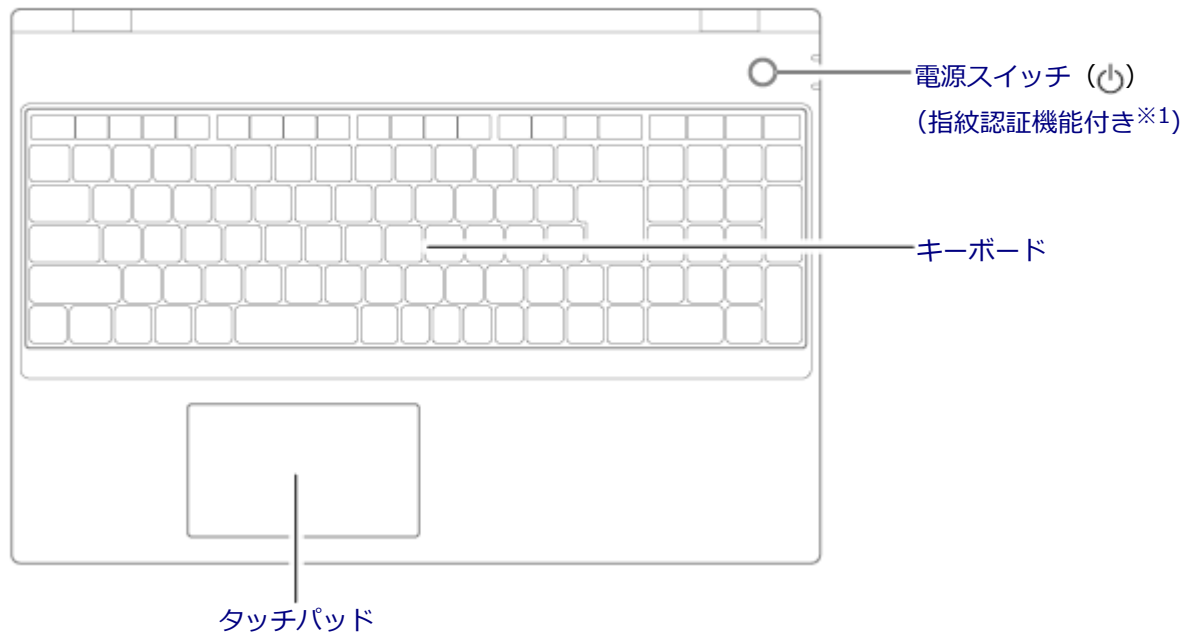
ディスプレイ周辺



※1 搭載モデルのみ使用できます。

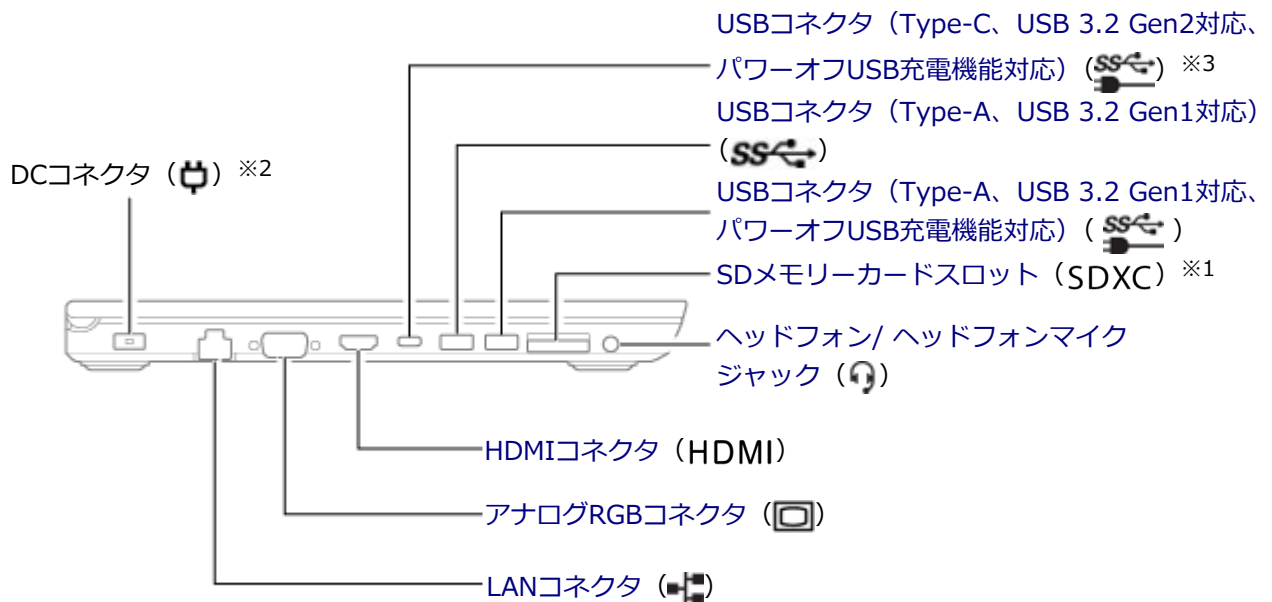
※2 右側にスライドすると、Webカメラにカバーがかけられ、映像が映らないようになります。

■ キーボード周辺



※1 搭載モデルのみ使用できます。

■ 左側面

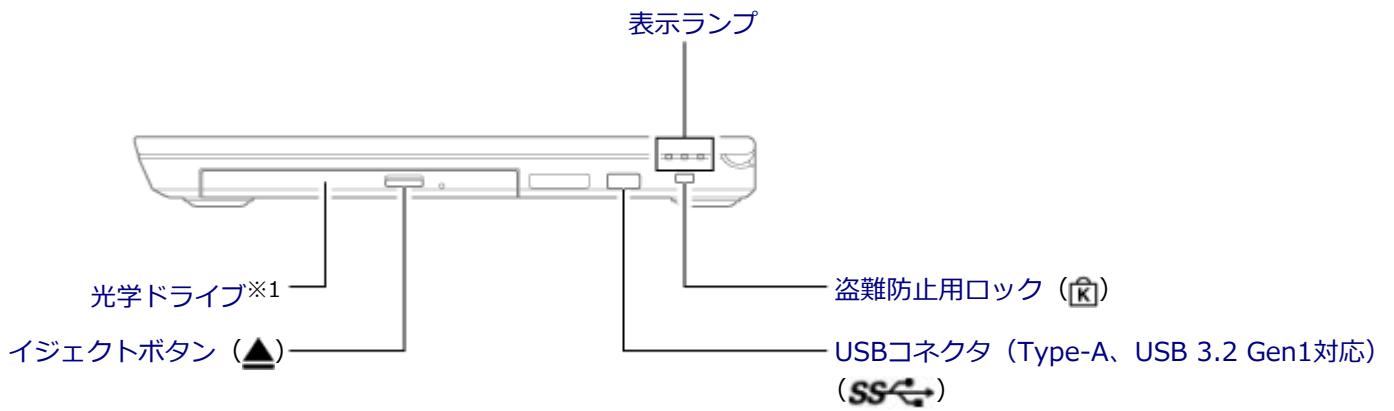


※1 搭載モデルのみ使用できます。

※2 添付のACアダプタを接続するための端子です。

※3 このUSBコネクタはPower Delivery規格に対応しており、Power Delivery規格に対応した周辺機器を充電することができます。

右側面



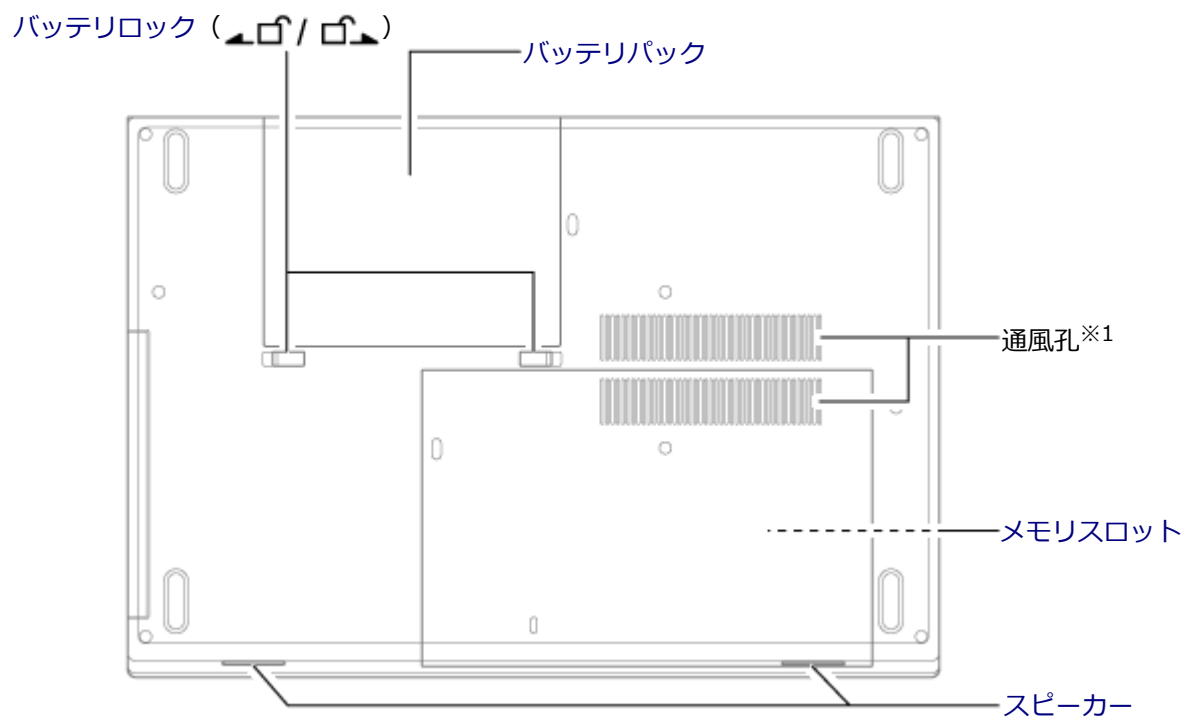
※1 搭載モデルのみ使用できます。

背面



※1 本体内部の熱を逃がすための孔です。布や手などでふさがないようにしてください。

■ 底面



※1 本体内部の熱を逃がすための孔です。布や手などでふさがないようにしてください。

表示ランプ

[020102-21]

🔌 電源ランプ

ランプの状態		本機の状態
白	点灯	電源が入っている
	点滅	スリープ状態
オレンジ	点灯	バッテリー駆動でバッテリー容量が少ない
	点滅※1	バッテリー駆動時にスリープ状態でバッテリー容量が少ない
	速い点滅※2	バッテリー駆動でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

※1 約3秒に1回点滅

※2 約2秒に1回点滅

🔋 バッテリー充電ランプ



メモ

バッテリー充電ランプの状態が充電中のとき、Windowsでバッテリー残量が100%と表示される場合がありますが、Windowsでの残量表示時の誤差によるもので故障ではありません。また、バッテリーの充電完了については充電ランプ側で確認してください。

ランプの状態	本機の状態
点灯	バッテリー充電中
点滅	バッテリーのエラー※1
消灯	ACアダプタが接続されていない、またはバッテリー充電完了※2

※1 バッテリー充電時のエラー、バッテリーの寿命、または劣化時にエラーとなります。

※2 すでにバッテリーが満充電されている場合や、満充電に近い状態の場合は、ランプが点灯せず、それ以上充電できない場合があります。

💿 ディスクアクセスランプ

ランプの状態	本機の状態
点灯※1	内蔵ストレージや光学ドライブにアクセス中
消灯	内蔵ストレージや光学ドライブにアクセスしていない

※1 SSDの種類によっては、点灯しない場合があります。

Webカメラランプ

ランプの状態	本機の状態
点灯	本体前面のWebカメラがオンになっている
消灯	本体前面のWebカメラがオフになっている

IR LED

ランプの状態	本機の状態
点滅	顔認証機能がオンになっている
消灯	顔認証機能がオフになっている



参照





顔認証機能について

「本機の機能」 - 「セキュリティ機能」 - 「顔認証機能 (P. 163)」

マイクミュートランプ

ランプの状態	本機の状態
点灯	マイクがミュートになっている（録音できません。）
消灯	マイクのミュートが解除されている（録音が可能です。）

ファンクションロックキーランプ

ランプの状態	本機の状態
点灯	【Esc/FnLock】がオンになっている（【  /F1】～【  /F9】、【ScrLk/F12】※ ¹ を押したときの動作がファンクションキー機能に固定されます。）
消灯	【Esc/FnLock】がオフになっている（【  /F1】～【  /F9】、【ScrLk/F12】※ ¹ のアクションキーがワンタッチで機能します。）

※1 テンキーレスキーボードのみ



参照

特殊キーの使い方について

「キーボード」 - 「キーの使い方」 - 「特殊キーの使い方 (P. 53)」

本機の電源の入れ方と切り方、スリープ状態や休止状態などについて説明しています。

▶ 電源の入れ方と切り方.....	23
▶ 電源の状態.....	25
▶ スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	26
▶ スリープ状態.....	28
▶ 休止状態.....	30
▶ 電源の設定.....	32
▶ 電源の自動操作.....	35

電源を入れる

電源を入れる際は、次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック

- 電源が入らない場合は、電源スイッチを少し長めに（1秒程度）押ししてください。
- 光学ドライブなどにディスクがセットされた状態で電源を入れると、Windowsが起動しない場合があります。その場合は、セットされているディスクを取り出してから、電源を入れ直してください。
- いったん電源を切った後で、電源を入れ直す場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけて電源を入れてください。
- メモリを変更した場合、メモリの組み合わせによっては、初期化のために電源を入れてから画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

1 周辺機器の電源を入れる

2 本機の電源スイッチを押す



参照

電源スイッチについて

「各部の名称」 - 「各部の名称」の「キーボード周辺 (P. 17)」

電源を切る

電源を切る際は、次の手順に従って正しく電源を切ってください。



チェック

- アプリケーションの表示中や、アクセスランプなどが点灯している場合は、本機の電源を切らないでください。
- 通信を行っている場合は、通信が終了していることを確認してから電源を切ってください。通信中に電源を切ると、通信中のデータが失われる場合があります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 をクリック

3 をクリックし、「シャットダウン」をクリック

シャットダウン処理終了後、電源が自動で切れます。



チェック

シャットダウン処理中は、電源スイッチを押さないでください。また、シャットダウン処理中に液晶ディスプレイを閉じると設定によってはスリープ状態または休止状態に移行してしまう場合があります。

4 電源ランプが消灯し、本機の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

「高速スタートアップ」について

「高速スタートアップ」とは、電源の切れた状態からすばやく起動するための機能です。

◆ 「高速スタートアップ」の機能を無効にする

周辺機器の取り付け/取り外しをする際は、次の手順で「高速スタートアップ」の機能を無効にし、シャットダウンしてから行ってください。

チェックを外さずに周辺機器の取り付け/取り外しを行った場合、周辺機器を認識しないことがあります。

1 「コントロール パネル (P. 9)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 左のメニューから「電源ボタンの動作の選択」または「電源ボタンの動作を選択する」をクリック

4 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリック

5 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする(推奨)」のチェックを外す

6 「変更の保存」ボタンをクリック

電源の状態

[020302-21]

本機の電源の状態には次のように「電源が入っている状態」「スリープ状態」「休止状態」「電源が切れている状態」の4つの状態があります。

- **電源が入っている状態**

通常、本機を使用している状態です。

- **スリープ状態**

作業中のメモリの状態を保持したまま、内蔵ストレージやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、メモリの状態を保持しているので、すぐに作業を再開できます。

- **休止状態**

メモリの情報をすべて内蔵ストレージに保存してから、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元します。

- **電源が切れている状態**

本機の電源を完全に切った状態です。

電源の状態は、本機の電源ランプで確認することができます。



参照

電源ランプについて

「各部の名称」の「[表示ランプ \(P. 20\)](#)」

スリープ状態または休止状態を使用する場合の注意

- 本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがありますので、次のような場合は、スリープ状態または休止状態にしないでください。
 - プリンタへ出力中
 - 通信を行うアプリケーションを実行中
 - LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
 - 音声または動画の再生中
 - 内蔵ストレージ、DVD、CD、SDメモリーカードなどにアクセス中
 - 「システムのプロパティ」画面を表示中
 - Windowsの起動／終了処理中
 - スリープ状態または休止状態に対応していないUSB機器などの周辺機器やアプリケーションを使用中
- スリープ状態のときに次のことが起きると、作業中のデータが失われますので、ご注意ください。
 - バッテリーのみで使用している状態で、バッテリーが切れた
 - バッテリー駆動に十分なバッテリー残量が無いときに、停電やACアダプタが抜けるなどの理由で、バッテリーのみで使用している状態になった
 - 電源スイッチを10秒以上押し続けて、強制的に電源を切った
- スリープ状態または休止状態への移行、復帰などの電源状態の変更は、5秒以上の間隔をあけてから行ってください。
- 休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してから休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめ、お使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、休止状態を使用してください。
- 通信を行うアプリケーションを使用中の場合は、通信を行うアプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。



参照

バッテリーについて

「バッテリー」の「[バッテリーの使い方と設定 \(P. 49\)](#)」

- スリープ状態または休止状態への移行中は各種ディスク、SDメモリーカードなどの各種メモリーカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態または休止状態中に、周辺機器の取り付けや取り外しなどの機器構成の変更を行うと、正常に復帰できなくなることがあります。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- スリープ状態時や休止状態時、スリープ状態や休止状態への移行中、スリープ状態や休止状態からの復帰中は、USB機器を抜き差ししないでください。
- 「電源オプション」で各設定を変更する場合は、管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。

- 光学ドライブにディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、ディスクを取り出してください。
- 光学ドライブにPhoto CDをセットしたままスリープ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
- スリープ状態または休止状態から復帰したときに、ディスプレイ表示の優先順位が入れ替わったり、外部ディスプレイの設定情報を読み込めない場合があります。外部ディスプレイを再設定してください。
- スリープ状態または休止状態からの復帰を行った場合、本体は復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、タッチパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- 次のような場合には、復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - アプリケーションが動作しない
 - スリープ状態または休止状態にする前の内容を復元できない
 - 電源スイッチを操作しても復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用しているときは、スリープ状態または休止状態にしないでください。電源スイッチを押しても復帰できなかったときは、電源スイッチを10秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再度設定してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

スリープ状態

[020304-21]

作業中のメモリの内容を保持したまま、内蔵ストレージやディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、内容が保持されているので、すぐに作業を再開できます。

また、本機はモダンスタンバイに対応しており、スリープ状態の間もネットワークの接続は維持され、一部の対応したアプリは処理や通信をおこなうことができます。



チェック

- スリープ状態への移行およびスリープ状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあげて行ってください。
- 本機を長時間使用しない場合は電源を切るか、ACアダプタを接続したうえでスリープ状態にしてください。バッテリーのみで長時間スリープ状態にしておくと、バッテリー残量がなくなることがあります。
- スリープ状態でバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れたりすることがあります。



メモ

「電源オプション」の「プラン設定の変更」で「ディスプレイの電源を切る」が設定されている場合は、設定した時間が経過すると、ディスプレイの電源が切れたスリープ状態に移行します。



参照

「電源オプション」について
「電源の設定 (P. 32)」

スリープ状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動でスリープ状態にするには、次の方法があります。

電源からスリープ状態にする

1 をクリック

2 をクリック

3 「スリープ」 をクリック

スリープ状態になります。スリープ状態への移行中は電源スイッチを押したり、液晶ディスプレイを閉じたりしないでください。

本機がスリープ状態になると、電源ランプが点滅します。

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチでスリープ状態にする場合は、電源スイッチを10秒以上押さないでください。電源スイッチを10秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

液晶ディスプレイを閉じる

スリープ状態から復帰する

スリープ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。
- スリープ状態で長時間経過した場合やバッテリー残量が少なくなった場合、自動的に本機が休止状態になっている場合があります。その場合は、電源スイッチで復帰させてください。

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチを押して復帰する場合は、電源スイッチを10秒以上押さないでください。電源スイッチを10秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じている場合は、液晶ディスプレイを開くことでスリープ状態から復帰できます。

休止状態

[020305-21]

メモリの情報をすべて内蔵ストレージに保存し、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元しますので、本機での作業を長時間中断する場合、消費電力を抑えるのに有効です。



チェック

休止状態への移行および休止状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

休止状態にする

電源が入っている状態から手で休止状態にするには、次の手順で行います。

1  をクリック

2  をクリック

3 「**休止状態**」 をクリック

休止状態への移行処理後、電源が自動で切れます。電源スイッチを押さないでください。本機が休止状態になると、電源ランプが消灯します。



メモ

「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順を行ってください。

1 「**コントロールパネル (P. 9)**」 を表示する

2 「**システムとセキュリティ**」 をクリックし、「**電源オプション**」 をクリック

3 左のメニューから「**電源ボタンの動作の選択**」または「**電源ボタンの動作を選択する**」 をクリック

4 「**現在利用可能ではない設定を変更します**」 をクリック

5 「**シャットダウン設定**」 の「**休止状態**」 にチェックを付ける

6 「**変更の保存**」 ボタンをクリック

■ 休止状態から復帰する

手動で、休止状態から電源が入っている状態に復帰するには、電源スイッチを押してください。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、サインインするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

電源の設定

[020306-21]

電源の設定は、Windowsの「電源オプション」で行います。

「電源オプション」では、あらかじめ設定されている電源プランから使用するプランを選択するほか、新規のプランを作成することができます。

また、プランごとに電源の状態を変更する操作の設定や、電源の状態が変更されるまでの時間を設定することができます。

電源プランの選択

設定されている電源プランから選択する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 表示されているプランから使用したいプランを選択する
- 4 画面右上の×ボタンをクリック

以上で電源プランの選択は完了です。

電源プランの設定の変更

すでに登録されている電源プランの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 設定を変更したいプランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 表示された画面で設定を行う

電源の種類ごとに設定できます。



チェック

設定時間を変更したときに、「コンピューターをスリープ状態にする」時間が「ディスプレイの電源を切る」時間よりも短くならないように、設定時間が自動的に変更される場合があります。個別に設定する場合は「詳細な電源設定の変更」をクリックして設定してください。



メモ

- 「詳細な電源設定の変更」をクリックすると、電源プランごとに詳細な設定が行えます。
- 「このプランの既定の設定を復元」を選択すると、設定値が既定の値に戻ります。
- 「ディスプレイの電源を切る」が設定されている場合、設定した時間が経過すると、ディスプレイの電源が切れたスリープ状態に移行します。

5 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で電源プランの設定の変更は完了です。

電源プランの作成

新規の電源プランを作成する場合は、次の手順で行います。

1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 左のメニューから「電源プランの作成」をクリック

4 「プラン名」欄に作成する電源プラン名を入力し、「次へ」ボタンをクリック

5 表示される画面で設定を行う

6 「作成」ボタンをクリック

以上で電源プランの作成は完了です。

作成した電源プランは、「[電源プランの選択 \(P. 32\)](#)」の手順で選択できます。

電源の状態を変更する操作の設定

電源スイッチを押す、液晶ディスプレイを閉じるなどの操作により移行する電源の状態を変更する場合は、次の手順で行います。



チェック

この手順で設定を行った場合、現在登録されているすべての電源プランの設定が変更されます。

1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 左のメニューから「電源ボタンの動作の選択」または「電源ボタンの動作を選択する」をクリック

4 「電源ボタンとカバーの設定」または「電源とスリープ ボタンおよびカバーの設定」欄で、動作を設定する



メモ

「スリープボタンを押したときの動作」が表示されている場合がありますが、本機では使用できない項目です。

5 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

電源の自動操作

[020307-21]

タイマ機能（電源オプション）、LANからのアクセス（WoL）によって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック

タイマ機能（電源オプション）、LANの自動操作によるスリープ状態からの復帰を行った場合、本体はスリープ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、タッチ패드などのポインティングデバイス进行操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能（電源オプション）

設定した時間内に、タッチ패드やキーボードからの入力や内蔵ストレージへのアクセスなどが無い場合、自動的にスリープ状態、休止状態にすることができます。

工場出荷時は次のように設定されています。

使用している電源	電源プランの名称	ディスプレイの電源を切る	スリープ状態にする	休止状態にする
ACアダプタ	標準	約10分	約30分	なし
バッテリー		約5分	約15分	なし



メモ

「電源オプション」の「プラン設定の変更」で「ディスプレイの電源を切る」が設定されている場合は、設定した時間が経過すると、ディスプレイの電源が切れたスリープ状態に移行します。



参照

「電源オプション」について
「電源の設定 (P. 32)」

WoL（LANによる電源の自動操作）

LAN経由で、離れたところにあるコンピューターの電源を操作する機能です。



参照

WoLについて
「LAN機能」の「リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (P. 115)」

本機の省電力機能について説明しています。

▶ 省電力機能について.....	37
▶ ECOモード機能.....	38
▶ ピークシフト機能.....	39
▶ Intel Speed Shift テクノロジー.....	40

省電力機能について

[020401-21]

Windowsには、一定時間本機を使用していない場合などに電源の状態を変更し、消費電力を抑えるための、スリープ状態や休止状態などの機能があります。

また、本機には次の省電力機能があります。

- **ECOモード機能**

【ECO】または「PC設定ツール」で設定したホットキーを押すことで、簡単にECOモード機能のモードを切り替えることができます。

- **ピークシフト機能**

設定した時間帯の間、バッテリーにより動作し、ACアダプタからの電源供給を控えることで、電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行することができます。

- **Intel Speed Shift テクノロジー**

処理の負荷などによって、CPUの動作性能を切り替える機能です。



参照

- **スリープ状態について**
「スリープ状態 (P. 28)」
- **休止状態について**
「休止状態 (P. 30)」
- **ECOモード機能について**
「ECOモード機能 (P. 38)」
- **ピークシフト機能について**
「ピークシフト機能 (P. 39)」
- **Intel Speed Shift テクノロジーについて**
「Intel Speed Shift テクノロジー (P. 40)」

ECOモード機能

[020402-21]

本機では、【ECO】または「PC設定ツール」で設定したホットキーを押すことで、簡単に電源プランをECOモードへ切り替えることができます。



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 53\)](#)」

ECOモード機能の設定

本機では、「PC設定ツール」でECOモード機能に関する設定ができます。



参照

PC設定ツールについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[PC設定ツール \(P. 191\)](#)」

ピークシフト機能

[020405-21]

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「PC設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。

■ ピークシフト機能の設定

本機では、「PC設定ツール」でピークシフト機能に関する設定ができます。



参照

PC設定ツールについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[PC設定ツール \(P. 191\)](#)」

Intel Speed Shift テクノロジー

[020404-21]

Intel Speed Shift テクノロジーに対応したCPUが搭載されているモデルでは、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

Intel Speed Shift テクノロジーへの対応については、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>

本機のバッテリーパック（二次電池）の使い方やバッテリー・ゲージのリセット、バッテリーパックの取り付け／取り外しなどについて説明しています。

▶ バッテリーパック（二次電池）について.....	42
▶ 使用上の注意.....	43
▶ バッテリーパックの取り付け／取り外し.....	45
▶ バッテリーの充電.....	48
▶ バッテリーの使い方と設定.....	49
▶ バッテリー・ゲージのリセット.....	51

バッテリーパック（二次電池）について

[020501-21]

- バッテリーについてはJEITA（一般社団法人 電子情報技術産業協会）の「ノートパソコンやタブレットのバッテリーに関する基礎知識」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/news/210730.html）もあわせてご覧ください。
- 二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
 - 電池パックは分解しないでください。
 - 雨など水にぬれないように保管してください。
 - 炎天下に放置しないでください。
- 本機に使用しているリチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要となった二次電池は、回収拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ（<https://jpn.nec.com/csr/ja/eco/recycle/index.html>）をご覧ください。



Li-ion

使用上の注意

[020502-21]

- バッテリーが十分に充電されている場合は、特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- 内蔵ストレージなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータや内蔵ストレージなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。
- 充電を行う際にはできるだけ満充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリー・ゲージのリセットを実行してください。
- 満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなった場合は、バッテリー・ゲージのリセットを行ってください。



参照

バッテリー・ゲージのリセットについて
「[バッテリー・ゲージのリセット \(P. 51\)](#)」

- 本機を長期間使用しない場合は、バッテリー残量を50%程度にしてバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーパックの寿命を長くすることができます。
- バッテリーパックを長期保管する場合は、過放電を防止するために、半年に1回くらいの割合で50%程度の充電をしてください。過放電となったバッテリーパックは充電ができなくなったり、使用できなくなったりすることがあります。
- バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、スリープ状態や休止状態を利用したり、本機の省電力機能を使用してください。



参照

- **スリープ状態について**
「[スリープ状態 \(P. 28\)](#)」
- **休止状態について**
「[休止状態 \(P. 30\)](#)」
- **省電力機能について**
「[省電力機能について \(P. 37\)](#)」

交換の目安

バッテリー・ゲージのリセットを行っても、満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）から使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。



チェック

バッテリーは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。



参照

バッテリーパックの交換について

「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 45)」

バッテリーパックの取り付け／取り外し

[020503-21]



チェック

- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因になります。
- 電源が入っているときや、スリープ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (🔌) が点滅しているときには、一度スリープ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。
- 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- バッテリーパックの取り付け／取り外しを行う場合は、「高速スタートアップ」の機能を無効にしてください。詳しくは、「高速スタートアップ」について (P. 24) をご覧ください。

本機で使用できるバッテリーパック

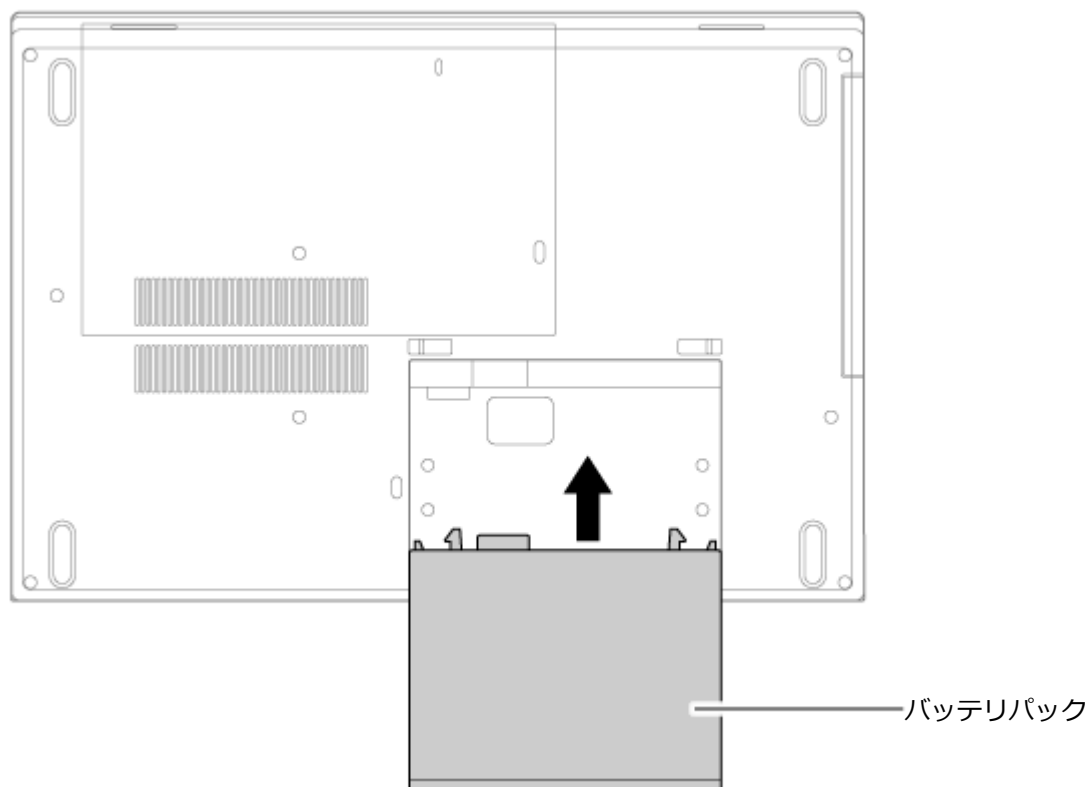
対応しているバッテリーパックについては、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「周辺機器適合」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>

バッテリーパックの取り付け

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックを矢印の方向にゆっくりとスライドさせ、カチッと音がするまでしっかりと取り付ける

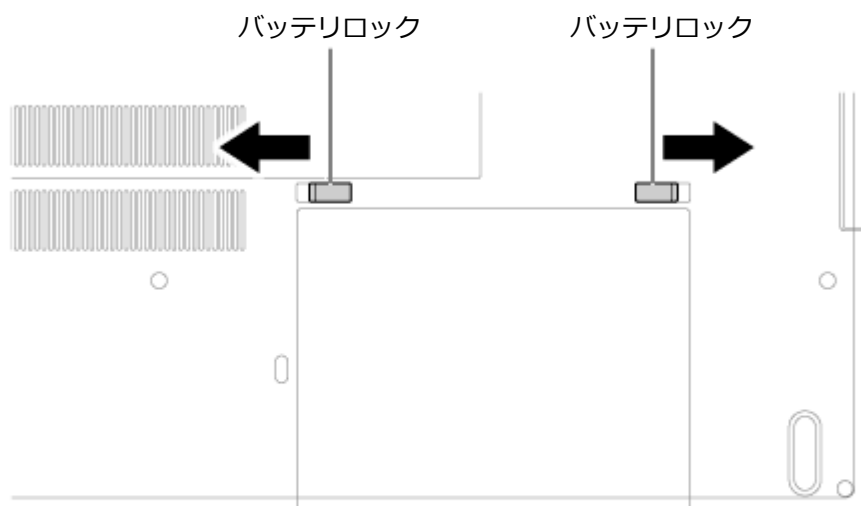
取り付けるときは、バッテリーパックの向きに注意してください。



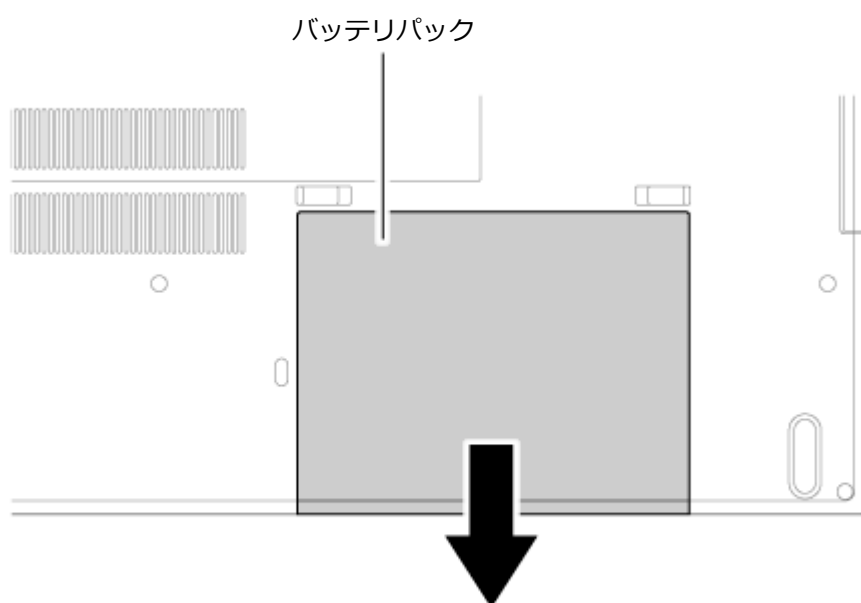
以上でバッテリーパックの取り付けは完了です。

■ バッテリーパックの取り外し

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4** 左右のバッテリーロックを、カチッと音がするまで矢印の方向にスライドさせる



5 バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせ取り外す



以上でバッテリーパックの取り外しは完了です。

バッテリーの充電

[020504-21]



チェック

- バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ず満充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。本機の電源を入れて使用していても充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

バッテリーの充電時間については、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプで確認することができます。



参照

バッテリー充電ランプについて
「表示ランプ (P. 20)」



バッテリーの使い方と設定

[020505-21]

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は次の方法で確認できます。

タスク バーの通知領域で確認する

タスク バーの通知領域の  または  をクリックすると、現在のバッテリー残量が表示されます。

電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。



参照

電源ランプについて
「表示ランプ (P. 20)」

バッテリー残量による動作の設定

バッテリー残量が一定の値以下になったときに通知したり、自動的に休止状態になるように設定できます。



チェック

バッテリー残量による動作は、電源プランごとに設定します。

バッテリー残量による動作の設定を変更するには、次の手順で行います。

1

「コントロール パネル (P. 9)」を表示する

2

「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3

設定を変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4

「詳細な電源設定の変更」をクリック

5

「バッテリー」をダブルクリック

6

表示される項目で設定を行う

7 「OK」 ボタンをクリック

以上で設定の変更は完了です。

■ バッテリ駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプが点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用できます。

ACコンセントが使えない場合

本機を休止状態にするか、使用中のアプリケーションを終了して本機の電源を切ってください。

バッテリー残量が少ない状態で、ACコンセントから電源を供給しないまま本機を使用していると、バッテリー残量に応じて電源プランで設定されている動作が実行されます。

バッテリー・ゲージのリセット

[020506-21]

バッテリー・ゲージのリセットは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。また、本製品のバッテリーは、バッテリーの寿命を延ばすため、使用状況に応じて、フル充電容量を最適化する場合があります。

コンピューターの電源を入れていない、ACアダプタを接続したままの状態コンピューターを使用しているなど、バッテリーを使用していない状態が長期間続いた場合、バッテリー残量20%以下まで放電したのちにフル充電するまでバッテリーの全容量を使用できないことがあります。

次のような場合には、バッテリー・ゲージのリセットを実行してください

- 購入直後やバッテリーパック交換直後
- 長期間バッテリーを使用しなかった
- バッテリーでの駆動時間が短くなった
- フル充電ができない
- バッテリーの寿命を延ばすため、フル充電容量を最適化している

バッテリー・ゲージのリセットの実行

バッテリー・ゲージのリセットは、「PC設定ツール」の「バッテリー」にある「バッテリー・ゲージのリセット」から行います。



参照

PC設定ツールについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[PC設定ツール \(P. 191\)](#)」

本機のキーボードのキーの使い方について説明しています。

▶ キーの使い方.....	53
---------------	----

キーの使い方

[020604-21]



メモ

お使いのモデルによりキーボードの形状が異なります。

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには【半角/全角/漢字】または【CapsLock/英数】を押してください。

ローマ字入力とかな入力を切り替える

【Alt】 + 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】を押すことで、ローマ字入力とかな入力を切り替えることができます。ただし、入力設定でこの切り替え機能がオンになっている必要があります。

【Alt】 + 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】を押してもローマ字入力とかな入力を切り替えることができない場合、次の手順で切り替え機能がオンになっているか確認してください。

1 タスクバーの通知領域の「A」または「あ」を右クリックし、表示されたメニューから「設定」をクリック

2 「全般」をクリック

3 「入力設定」の「かな入力/ローマ字入力を Alt + カタカナひらがなローマ字キーで切り替える」の設定を確認する

特殊キーの使い方



チェック

機能によっては、Windowsの起動直後に操作しても動作しない場合があります。そのような場合は、Windowsが起動し、しばらくしてから操作をおこなってください。


ワンタッチアクションキー

特定のキーを押すことで、本機の設定を変更することができます。



メモ

下記のキーはワンタッチで機能します。間違えて押さないようご注意ください。

キー操作	説明
【  /F1】	音声のオン/オフを切り替えます。

【  -/F2】	スピーカーの音量を下げます。
【  +/F3】	スピーカーの音量を上げます。
【  /F4】	マイクのオン/オフを切り替えます。 マイクがオフの場合、右上のランプが点灯します。
【  /F5】	ミーティング機能を切り替える画面を表示します。 キーを押すごとに、「オフ」→「パーソナル」→「マルチユーザー」→「オフ」（ヘッドフォン接続時は「オフ」→「ヘッドフォン」→「オフ」）と切り替わるので、使用したい設定を選択して【Enter】を押すか、使用したい設定をクリックしてください。設定を変更せずに表示を消す場合は、【Esc/FnLock】を押すか、ミーティング機能を切り替える画面以外の場所をクリックしてください。
【  -/F6】	液晶ディスプレイの輝度が下がります（11段階）。
【  +/F7】	液晶ディスプレイの輝度が上がります（11段階）。
【   /F8】 ※1※3	外部ディスプレイを接続しているときに、画面を表示する方法を切り換えます。
【  /F9】	機内モードのオン/オフを切り替えます。詳しくは「無線LAN機能のオン/オフ (P. 125)」、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 152)」をご覧ください。
【ScrLk/F12】 ※4※5	スクロールロックとして機能します。
【ECO】 ※2	ECOモードを切り替えます。詳しくは「ECOモード機能 (P. 38)」をご覧ください。

※1 外部ディスプレイを接続していない場合は動作しません。

※2 「PC設定ツールLibrary」をアンインストールした場合は動作しません。

※3 2台の外部ディスプレイを同時に接続している場合は、「表示先、表示機能を設定する (P. 77)」の方法で設定を行ってください。

※4 テンキーレスキーボードのみ



※5 本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。



【Fn】の使い方

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定を変更したり、キーの役割を変えることができます。



メモ

【Fn】と【/F1】～【/F9】、【ScrLk/F12】（テンキーレスキーボードのみ）を同時に押すことで、ファンクションキー機能として使用することができます。ただし、【F10】【F11】、および【F12】（テンキー付きキーボードのみ）は【Fn】を押しても押さなくてもファンクションキー機能として使用することができます。

キー操作	機能	説明
【Fn】 + 【Esc/FnLock】	ファンクションロック	ファンクションロックのオン/オフを切り替えます。 ファンクションロックがオンの場合、ファンクションロックキーランプが点灯し、【  /F1】～【  /F9】、【ScrLk/F12】（テンキーレスキーボードのみ）を押したときの動作がファンクションキー機能に固定されます。その他の【Fn】と組み合わせ

		て機能するキーは、ファンクションロックの状態に関わらず、【Fn】と同時に押した場合に機能します。
【Fn】 + 【Pause/Break】 ※ 1	Break	Breakとして機能します。
【Fn】 + 【PrtSc/Insert】 ※ 1	Insert	Insertとして機能します。
【Fn】 + 【Delete/SysRq】 ※ ※1	SysRq	システムリクエストとして機能します。
【Fn】 + 【Insert/ScrLk】 ※ 2※3	ScrLk	スクロールロックとして機能します。
【Fn】 + 【Home/SysRq】 ※ 2	SysRq	システムリクエストとして機能します。
【Fn】 + 【PgUp/Break】 ※ 2	Break	Breakとして機能します。
【Fn】 + 【PgDn/Pause】 ※ 2	Pause	Pauseとして機能します。
【Fn】 + 【^/PgUp】	Page Up	Page Upとして機能します。
【Fn】 + 【v/PgDn】	Page Down	Page Downとして機能します。
【Fn】 + 【</Home】	Home	Homeとして機能します。
【Fn】 + 【>/End】	End	Endとして機能します。
【Fn】 + スペースキー	タッチパッドのオン /オフ	タッチパッドのオン/オフを切り替えます。

※1 テンキーレスキーボードのみ

※2 テンキー付きキーボードのみ

※3 本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。

タッチパッド (NXパッド)

[020800-21]

本機のタッチパッドの拡張機能の設定方法などについて説明しています。

▶ タッチパッド (NXパッド) の設定.....	57
---------------------------	----

タッチパッド (NXパッド) の設定

[020803-21]



チェック

スクロールやズームの機能は、対応していないアプリケーションでは使用できません。

タッチパッドのボタンやポインタの動作などの設定

タッチパッドのボタンやポインタの動作などの設定は「マウスのプロパティ」で行います。

1 「コントロール パネル (P. 9)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」の各タブをクリックし、タッチパッドの設定ができます。

マルチタッチやジェスチャーなどの機能の設定

マルチタッチやジェスチャー、スクロールなどの機能の設定は、「タッチパッド」画面で行います。
「タッチパッド」画面の表示は、次の手順で行います。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「デバイス」をクリック

3 「タッチパッド」をクリック

ジェスチャーの詳細設定を変更する

ジェスチャーの詳細な設定を行う場合は、次の手順で行います。

1 「タッチパッド」画面の「関連設定」から、「ジェスチャーの詳細な構成」をクリック

2 「3 本指ジェスチャーの構成」または「4 本指ジェスチャーの構成」で、ジェスチャーの構成を変更する

工場出荷時の設定に戻す

タッチパッドの設定を工場出荷時の状態に戻す場合は、次の手順で行います。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「デバイス」をクリック

3 「タッチパッド」をクリック

4 「タッチパッドをリセットする」の「リセット」ボタンをクリック

タッチパッドのオン/オフ

【Fn】 + スペースキーを押すことで、タッチパッドのオン/オフを切り替えることができます。



チェック

「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」のチェックを外した状態でマウスを接続した場合は、【Fn】 + スペースキーを押してもタッチパッドは有効になりません。

本機でマウスを使用する場合の設定について説明しています。

▶ マウスについて.....	60
----------------	----

マウスについて

[020902-21]

本機では、USB接続のマウスを使用することができます。

添付または別売の当社製USBマウスを使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

他社製のUSBマウスを使用する場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。手順に従ってUSBマウスを接続してください。



チェック

- USBマウス接続時にタッチパッドを有効または無効にしたい場合は、「タッチパッド (NXパッド)」 - 「タッチパッド (NXパッド) の設定」の「**タッチパッドのオン/オフ (P. 58)**」をご覧ください。
- USBレーザーマウスやUSB光センサーマウスは、マウス底面に光源があり、マウスを置いた操作面をセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。次のような操作面では正しく動作しない（操作どおりにマウスポインタが動かない）場合があります。
 - 反射しやすいもの（鏡、ガラスなど）
 - 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
 - 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
 - 光沢があるもの（透明、半透明な素材を含む）

液晶ディスプレイ

[021100-21]

本機の液晶ディスプレイの表示の調整や表示できる解像度と表示色、表示に関する機能の設定などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.....	62
▶ 画面表示の調整.....	63
▶ 液晶ディスプレイの回転.....	64
▶ 画面の回転.....	66
▶ 表示できる解像度と表示色.....	67
▶ ディスプレーストレッチ機能.....	68

使用上の注意

[021101-21]

- 液晶ディスプレイは非常に高精度な技術で作られていますが、色調のズレなど個体差が発生する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。
- OpenGLのアプリケーションを使用した場合、アプリケーションによっては、画面が表示されない、または画面の表示が乱れることがあります。
- DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音切れ、およびデスクトップ上のアイコンのちらつきが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。
- DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。
- Windowsの状態によっては、スクリーンセーバー動作時に液晶ディスプレイの電源がオフにならない場合があります。
- 各種ベンチマークが正常に実行できない場合があります。
- 画面回転時にスリープ状態や休止状態にしたり、再起動や電源を切るなどの操作を行わないでください。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを表示したまま行わないでください。
- 動画を再生するアプリケーションによっては、画質が低下する場合があります。
- 本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがありますが、故障ではありません。

輝度を調整する

「アクションセンター」で調整する

輝度の調整は次の手順で行います。

1 「アクションセンター (P. 9)」を表示する

タイルが折りたたまれている場合は、「展開」をクリックしてください。

2 タイル下の調整バーをスライドし、輝度を調整する

キーボードで調整する

キーボードで、輝度を調整できます。

キー操作	説明
【☀️-/F6】	液晶ディスプレイの輝度が下がります。
【☀️+/F7】	液晶ディスプレイの輝度が上がります。

液晶ディスプレイの回転

[021106-21]

本機は液晶ディスプレイを180度回転した状態で使用できます。

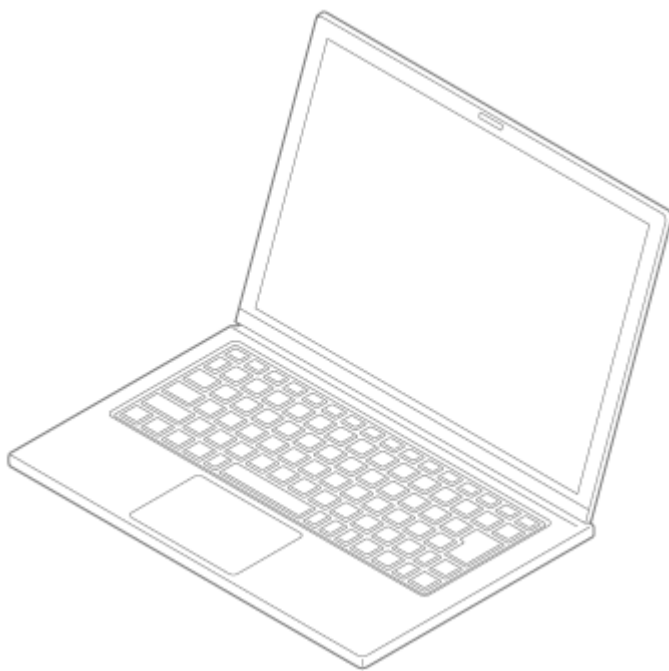


チェック

- フラット スタイルの状態では机などに設置して使用する場合は、そのまま本体を引きずらないでください。本機に傷が付いたり、塗装がはがれたりする可能性があります。
- 無理な力で液晶ディスプレイを開閉しないでください。液晶ディスプレイやヒンジ部分が損傷するおそれがあります。

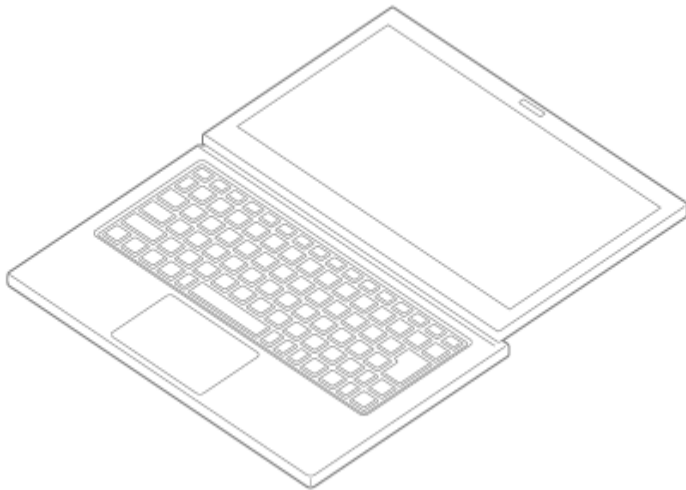
● ノートPC スタイル

文書やメールの作成では、ノートPC スタイルが適しています。



● フラット スタイル

手元で操作しながら対面の相手に図や表を表示したい場合は、フラット スタイルが適しています。



参照

画面の回転について

「液晶ディスプレイ」の「[画面の回転 \(P. 66\)](#)」

画面を回転させる

以下の手順で画面を回転させることができます。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「システム」をクリック

3 「ディスプレイ」をクリック

4 「画面の向き」欄で表示したい設定を選択する



メモ

表示画面を拡張している場合は、事前に「ディスプレイの配置を変更する」から向きを設定したいディスプレイを選択してください。

5 「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されたら、「変更の維持」をクリック

以上で画面の回転の設定は完了です。



チェック

画面の向きを元に戻す場合は、「ディスプレイ」の「画面の向き」から、「横」を選択します。



参照

表示先や表示機能の設定について
「表示先、表示機能を設定する (P. 77)」

表示できる解像度と表示色

[021103-21]

本製品で使用できる液晶ディスプレイの解像度や表示色については、「仕様一覧」に記載しております。「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>



チェック

設定により、「仕様一覧」に記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ず記載されている解像度で使用してください。



アイコンの名前が隠れてしまうときは

画面の解像度やアイコンサイズを変更した場合、デスクトップ上のアイコンの名前が一部隠れてしまう事があります。

そのような場合は、次の手順で「アイコンの自動整列」を有効にしてください。

1

デスクトップの何も無い場所を右クリック

2

「表示」の「アイコンの自動整列」を有効にする



参照

外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色、機能、設定について
「外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色 (P. 72)」

ディスプレイストレッチ機能

[021104-21]


ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能を使う場合は次の手順で行います。



チェック

ディスプレイストレッチ機能を使用して拡大表示を行っている場合、表示される文字などの線の太さが不均一になることがあります。

- 1  をクリックし、スタートメニューから「**インテル® グラフィックス・コマンド・センター**」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示された場合は、内容を確認し承諾してください。

- 2  (ディスプレイ) をクリック

- 3 「**接続中のディスプレイ**」で設定したいディスプレイを選択する

- 4 「**一般**」または「**全般**」をクリック

- 5 「**スケール**」欄で「**引き伸ばし**」を選択する

- 6 「**変更内容を保存しますか?**」と表示されたら、「**保持**」をクリック

- 7 画面右上の**x**ボタンをクリック

設定が有効になり、ディスプレイストレッチ機能が使用できます。

外部ディスプレイ

[021200-21]

外部ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、画面の表示先の切り替えなどについて説明しています。

▶ 使用上の注意.....	70
▶ 外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	72
▶ 外部ディスプレイを接続する.....	73
▶ 外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	76
▶ 表示先、表示機能を設定する.....	77
▶ ディスプレイに合わせた設定.....	81

使用上の注意

[021201-21]

- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、アナログRGBコネクタへのディスプレイ用ケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを表示したまま行わないでください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を行っている場合、オーバーレイを使用して再生する動画は、プライマリ側のディスプレイにのみ表示されます。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示を行っている場合、動画再生時に表示が乱れる場合があります。その場合は、本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイ1台のみで動画再生をしてください。
- 高解像度で外部ディスプレイに表示している場合、DVD-Videoの種類によっては、コマ落ち、映像の乱れが発生する場合があります。その場合は、より低い解像度に設定することをおすすめします。
- 外部ディスプレイに表示している状態で、本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがあります。故障ではありません。
- 外部ディスプレイやテレビを接続した場合、OSのDPI仕様により解像度を変更出来ない場合があります。その場合はプライマリとその他のディスプレイの表示サイズを小さくする必要があります。



メモ

- 機種によってはその他のディスプレイの表示サイズがプライマリ表示サイズと比例して変更される場合もあります。
- 解像度を選択できない場合、「設定」-「システム」-「ディスプレイ」にある「検出」ボタンをクリックすると選択可能になる場合があります。
- 「検出」ボタンをクリックした後、「別のディスプレイは検出されませんでした。」メッセージが表示される場合がありますが本機に影響はありません。

HDMIコネクタ使用時の注意

- すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしていません。そのため、接続した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
- HDMIケーブルは、別途市販のものをお買い求めください。
- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、HDMIコネクタへのHDMIケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- 著作権保護されたコンテンツなどは出力されない場合があります。
- 接続するディスプレイの対応解像度やリフレッシュレートによっては、表示できない場合があります。

外部ディスプレイコネクタを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、HDMIコネクタからの出力を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 162\)](#)」

外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色

[021202-21]

本製品で使用できる外部ディスプレイの解像度や表示色については、「仕様一覧」に記載しております。「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>



チェック

- 外部ディスプレイをご使用の際は、外部ディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。
- 初回接続時の外部ディスプレイやテレビには、本機の液晶ディスプレイの画面が複製されます。
- 設定により、マニュアルに記載されていない解像度や周波数を選択できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度や周波数で使用してください。
- 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

外部ディスプレイを接続する

[021203-21]

▶ アナログRGBコネクタへの接続.	73
▶ HDMIコネクタへの接続.	74
▶ 外部ディスプレイ接続時の音声出力について.	74



チェック

- 以下の外部ディスプレイは、ご購入時に選択した場合に添付されます。また、別途購入することもできます。
 - 24型3辺狭額縁フルHD液晶
 - 21.5型3辺狭額縁フルHD液晶
- ディスプレイを接続するとき、本機を使用中の場合には、本機の電源を切ってください。
- 本体がディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。

アナログRGBコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイの電源を切る

2 ディスプレイ用ケーブルを本機のアナログRGBコネクタ () に接続する



チェック

ディスプレイ用ケーブルは、コネクタ両端のネジを締め、しっかりと固定してください。



参照

アナログRGBコネクタの位置について


「各部の名称」 - 「各部の名称」の「[左側面 \(P. 17\)](#)」

3 外部ディスプレイと本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

プロジェクタの接続

本機のアナログRGBコネクタ () には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売のプロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。

ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度（ドット）、垂直走査周波数（Hz）などを確認してください。

HDMIコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイやテレビの電源を切る

2 HDMIケーブルで、HDMIコネクタとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビなどを接続する



参照

HDMIコネクタの位置について

「各部の名称」 - 「各部の名称」の「左側面 (P. 17)」

3 外部ディスプレイやテレビと、本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイやテレビのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

外部ディスプレイ接続時の音声出力について

HDMIコネクタに映像を出力すると、接続した機器が音声出力に対応している場合には、音声を出力することができます。自動で切り替わる場合もありますが、自動的に音声切り替わらない場合は、手動で設定を行ってください。



チェック

- 音声の出力先の変更手順については、「[音声の入出力先を変更する \(P. 106\)](#)」をご覧ください。
- HDMIコネクタに映像を出力しているときに音声出力されなくなった場合は、本機を再起動すると改善されることがあります。



接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認するには

接続している機器がHDMIの音声出力のサンプリングレートに対応していない場合、音声出力されることがあります。

本機を再起動しても音声出力されない場合は、次の手順に従って、接続している機器の対応しているサンプリングレートに設定されているか確認してください。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「システム」をクリック

3 「サウンド」をクリック

4 「関連設定」欄の「サウンド コントロール パネル」をクリック

「サウンド」が表示されます。

5 任意のデバイスをクリックし、「プロパティ」をクリック

6 「詳細」タブをクリック

7 「既定の形式」欄の設定が接続先の機器に対応していることを確認する



参照

対応しているサンプリングレートについて
接続している機器のマニュアル

8 「OK」ボタンをクリック

9 「OK」ボタンをクリック

外部ディスプレイ接続時の表示機能

[021205-21]

外部ディスプレイを接続して使用する場合、本機の液晶ディスプレイ、または接続した外部ディスプレイのみに表示する他、次の表示機能が使用できます。

表示画面を拡張する

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、ひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。

表示画面を複製する

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示を行います。表示される内容は同じものですが、選択した解像度によっては本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが異なる表示状態になる場合があります。



チェック

- 本機はHDMI×1、アナログRGB×1を装備し、本機の液晶ディスプレイを含む最大3画面の同時表示が可能なマルチディスプレイに対応しています。
- 接続している外部ディスプレイやプロジェクタによっては、これらの機能の選択時に、画面の解像度が変更される場合があります。その場合は、解像度を設定し直してください。
- すべての外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。そのため、接続した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。



参照

- **表示先や表示機能の設定について**
「表示先、表示機能を設定する (P. 77)」
- **液晶ディスプレイと外部ディスプレイの解像度と表示色について**
「表示できる解像度と表示色 (P. 67)」
「外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色 (P. 72)」

表示先、表示機能を設定する

[021212-21]

▶ 表示画面を拡張する.	77
▶ 表示画面を複製する.	78
▶ プライマリディスプレイの選択.	79
▶ 1つのディスプレイのみに表示する.	80



チェック

- 動画再生のソフトウェアを表示中は、設定の変更を行わないでください。設定の変更を行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。
- 表示画面を拡張したとき、画面の解像度によっては、複数のディスプレイに同時に表示できない場合があります。
- 表示画面を拡張したとき、表示ディスプレイの優先順位を交換する設定ができない場合があります。その場合は一度、本機の液晶ディスプレイのみに表示する設定などに変更してから設定してください。
- 表示画面の拡張から複製へ、または表示画面の複製から拡張に直接変更できない場合があります。その場合は一度、本機の液晶ディスプレイのみに表示する設定に変更してから、表示画面の拡張または複製に変更してください。
- 表示画面を複製したとき、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイで個別の解像度設定はできません。

表示画面を拡張する

複数のディスプレイをひとつの画面として使用できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続きの画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。

1 外部ディスプレイを接続し、電源を入れる

2 本機の電源を入れる



チェック

Windowsが起動するまで、いずれかのディスプレイのみに表示されます。

3 をクリックし、スタートメニューから「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示された場合は、内容を確認し承諾してください。

4 (ディスプレイ) をクリック

5 「接続中のディスプレイ」で、ディスプレイアイコンの右上にある をクリック

6 「拡張する」をクリックし、画面を表示する先のディスプレイを選択する



チェック

- 2台以上のディスプレイを同時に接続している場合は、「すべてを拡張する」を選択すると、接続しているディスプレイすべてに画面が拡張されます。
- 必要に応じて画面の解像度を変更する場合は、「ディスプレイ」から「一般」または「全般」をクリックし、設定してください。

7 「接続中のディスプレイ」でディスプレイアイコンをドラッグして、位置を調整する

8 「適用」をクリック

9 画面右上の×ボタンをクリック

以上で表示画面の拡張は完了です。

表示画面を複製する

接続した外部ディスプレイに本機のディスプレイと同じ画面を表示する機能です。プレゼンテーションをするときになどに便利です。

1 外部ディスプレイを接続し、電源を入れる

2 本機の電源を入れる



チェック

Windowsが起動するまで、いずれかのディスプレイのみに表示されます。

3 をクリックし、スタートメニューから「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示された場合は、内容を確認し承諾してください。

4 (ディスプレイ) をクリック

5 「接続中のディスプレイ」で、設定したいディスプレイアイコンの右上にあるをクリック

6 「ミラーリング」をクリックし、画面を表示する先のディスプレイを選択する



チェック

- 2台以上のディスプレイを同時に接続している場合は、「すべてをミラーリングする」を選択すると、接続しているディスプレイがすべての画面に複製されます。
- 必要に応じて画面の解像度を変更する場合は、「ディスプレイ」から「一般」または「全般」をクリックし、設定してください。

7 画面右上の×ボタンをクリック

以上で表示画面の複製は完了です。

プライマリディスプレイの選択

プライマリに設定するディスプレイを選択できます。

1 をクリックし、スタートメニューから「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示された場合は、内容を確認し承諾してください。

2 (ディスプレイ) をクリック

3 「接続中のディスプレイ」で、設定したいディスプレイアイコンの右上にあるをクリック

4 「メイン・ディスプレイに設定」をクリックする



メモ

プライマリに設定されているディスプレイには、「★」が表示されています。

5 画面右上の×ボタンをクリック

以上でプライマリディスプレイの選択は完了です。

1つのディスプレイのみに表示する

外部ディスプレイを接続したまま、表示画面の複製または拡張をした状態から1つのディスプレイのみの表示にすることができます。



チェック

プライマリに設定されているディスプレイは非表示にできません。以下の操作は、表示したいディスプレイをプライマリディスプレイに設定してから行ってください。

1 をクリックし、スタートメニューから「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示された場合は、内容を確認し承諾してください。

2 (ディスプレイ) をクリック

3 「接続中のディスプレイ」で、非表示にしたいディスプレイアイコンの右上にある をクリック

4 「無効にする」をクリック



チェック


- 表示画面を複製している場合は、「無効にする」を選択し、さらに非表示にするディスプレイをクリックします。
- 2台以上のディスプレイを同時に接続している場合、残りのディスプレイに対して、手順3と手順4を繰り返します。

5 画面右上の×ボタンをクリック

以上で1つのディスプレイのみに表示する手順は完了です。



チェック

非表示にしたディスプレイを再び表示するには、ディスプレイアイコンの右上にある  をクリックし、「有効にする」をクリックします。

ディスプレイに合わせた設定

[021208-21]

外部ディスプレイ使用時に、表示が適切でない場合やプラグ&プレイに対応していないディスプレイを使用しているときは、次の操作を行ってください。



チェック

プラグ&プレイに対応したディスプレイを使用しても、ディスプレイの情報が反映されない場合があります。その場合も、次の操作を行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されている場合

ディスプレイのマニュアルをご覧ください。ドライバのインストールを行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されていない場合

次の手順で設定を行ってください。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「システム」をクリック

3 「ディスプレイ」をクリック

4 「ディスプレイの詳細設定」をクリック

5 「ディスプレイの選択」で、お使いのディスプレイを選択する

6 「ディスプレイXXのアダプターのプロパティを表示します」をクリック

7 「モニター」タブをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック

8 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック

「ドライバーの更新」が表示されます。

9 「コンピューターを参照してドライバーを検索」をクリック

10 「コンピューター上の利用可能なドライバーの一覧から選択します」をクリック

11 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外す

12 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニターの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

13 「閉じる」ボタンをクリック

14 「閉じる」ボタンをクリック

15 「OK」ボタンをクリック

以上でディスプレイの設定は完了です。

本機のWebカメラについて説明しています。

▶ Webカメラについて.....	84
-------------------	----

Webカメラについて

[023602-21]



メモ

Webカメラ搭載（IR対応）モデルをお使いの場合のみ、利用できます。

本機のWebカメラでは、動画・静止面の撮影や、Windowsの「カメラ」アプリとの連携を行えます。
また、Webカメラ（IRカメラ対応）搭載モデルをお使いの場合、顔認証機能がご使用になれます。



チェック

- Windowsの「カメラ」アプリは、工場出荷状態にはインストールされていません。
- Webカメラを使用する場合は、プライバシーシャッターを開けてください。



参照

- **Webカメラ、プライバシーシャッターの位置について**
「各部の名称」 - 「各部の名称」の「ディスプレイ周辺 (P. 16)」
- **顔認証機能について**
「セキュリティ機能」 - 「顔認証機能 (P. 163)」

本機の内蔵ストレージの使用上の注意などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.....	86
---------------	----

使用上の注意

[021301-21]

内蔵ストレージは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- 内蔵ストレージのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 高熱
 - 落雷
- 内蔵ストレージが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- 内蔵ストレージの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。
- 本機の内蔵ストレージには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、システムのリカバリー時に必要なデータなどが格納されています。この領域にあるデータは削除しないでください。



チェック

内蔵ストレージ内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。内蔵ストレージのメンテナンスについては、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

内蔵ストレージのデータを保護する

SMART機能

本機の内蔵ストレージは、S.M.A.R.T. (Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology) に対応しているため、内蔵ストレージの異常を検出し、内蔵ストレージの故障が予見された場合は警告をします。

本機の光学ドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.....	88
▶ 外付け光学ドライブの取り付け.....	89
▶ 各部の名称と役割.....	90
▶ 使用できるディスク.....	91
▶ 読み込みと再生.....	92
▶ 書き込みとフォーマット.....	94
▶ 非常時のディスクの取り出しかた.....	95

使用上の注意

[021601-21]

- 光学ドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
 - アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因になります。
 - イジェクトボタンを押してからディスクトレイが排出されるまで数秒かかることがあります。
 - ディスクの信号面（文字などが印刷されていない面）に傷を付けないように注意してください。
 - 本機で、次のような形式や規格、異なった形やサイズのディスクは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因になる場合があります。
 - AVCHD形式またはAVCREC形式のDVD
 - 名刺型、星型などの円形ではない、異形ディスク
 - 厚さが1.2mmを大きく超える、または大きく満たないディスク
 - 規格外に容量の大きな書き込みディスク
- また、特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。
- 光学ドライブにディスクをセットすると、自動再生の表示がされる場合があります。その場合は自動再生の表示をクリックし、表示された画面から実行したい操作をクリックしてください。
 - ディスクに飲み物などをこぼした場合、そのディスクは使用しないでください。
 - DVD、CDの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイ中心の軸に、きちんとセットしてください。

光学ドライブを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、光学ドライブの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 162)」

外付け光学ドライブの取り付け

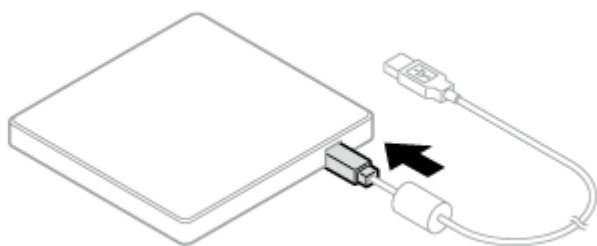
[021608-21]

接続のしかた

外付け光学ドライブをお使いになるには、次の手順で本機に接続してください。

1 光学ドライブ背面に、光学ドライブ用ケーブルのプラグを接続する

プラグの向きに注意して、差し込んでください。



2 光学ドライブ用ケーブルを、本機左側面のUSBコネクタに接続する



チェック

左側面以外のUSBコネクタに接続すると、正常に動作しません。

プラグの向きに注意して差し込んでください。



参照

USBコネクタ使用時の注意

「USBコネクタ」の「使用上の注意 (P. 134)」

各部の名称と役割

[021602-21]

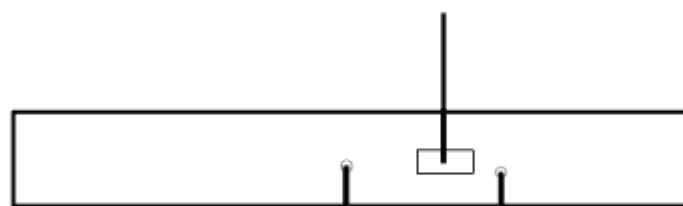


チェック

アクセスランプ点灯中は本機の電源スイッチやイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。

イジェクトボタン

セットしたディスクを取り出すためのボタンです。



アクセスランプ

ディスクアクセス中は点灯します。

非常時ディスク取り出し穴

非常時に、ディスクトレイを手動で引き出すために使用します。



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによって図と多少異なることがあります。

また、モデルによっては、アクセスランプがないものもあります。

使用できるディスク

[021603-21]

お使いのモデルにより、光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、下記のアドレスから「光学ドライブ仕様一覧」にアクセスし、お使いの機種をご覧ください。

https://jpn.nec.com/products/bizpc/info/pc/drive_spec.html

■ ディスク利用時の注意

- 記録用のDVDには、録画用（for Video）とデータ用（for Data）とがありますので、ご購入の際にはご注意ください。
- DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB）に準拠したディスクに対応しています。また、カートリッジ式のディスクは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはディスク取り出し可能なカートリッジ式でディスクを取り出してご利用ください。DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB/両面5.2GB）の読み出し/書き換えはサポートしておりません。

読み込みと再生

[021604-21]

読み込みや再生ができるディスクについては、下記のアドレスから「光学ドライブ仕様一覧」にアクセスし、お使いの機種をご覧ください。

https://jpn.nec.com/products/bizpc/info/pc/drive_spec.html

また、本機でDVDを再生するには、添付の「CyberLink PowerDVD」を使用してください。



チェック

CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioは再生できません。



参照

CyberLink PowerDVDについて

「便利な機能とアプリケーション」の「CyberLink PowerDVD (P. 204)」

ディスク再生時の注意

本機でDVD、CDの読み込みや再生を行うときは、次のことに注意してください。

- 本機で記録したDVD、CDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したDVD、CDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では再生および再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や取り込みができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面に規格準拠を示すCompact Discのマークの付いたディスクを使用してください。
- CD (Compact Disc) 規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、リージョンコード (国別地域番号) が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- DVDや動画を再生する際は、再生に使用するアプリケーション以外のソフトウェアを終了することをおすすめします。本機での動画再生には高い処理能力が必要とされ、お使いのモデルや設定によっては、複数のアプリケーションを実行している状態で動画再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。
- ECOモード機能で、省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDや動画の再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「標準」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「省電力機能」の「ECOモード機能 (P. 38)」

- 本機でDVDを再生する場合、次のことに注意してください。
 - 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示を行っている場合、動画再生時に表示が乱れる場合があります。その場合は、本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイ1台のみで動画再生をしてください。
 - DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音飛びが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。DVDの再生中は、再生画面の上に他のウィンドウを重ねないでください。
 - DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。

書き込みとフォーマット

[021605-21]

DVDスーパーマルチドライブモデルで、DVD、CDへの書き込み、書き換え、およびフォーマットをするには、「CyberLink Power2Go」を使用してください。



参照

CyberLink Power2Goについて

「便利な機能とアプリケーション」の「CyberLink Power2Go (P. 207)」



メモ

DVD、CDへの書き込みはWindowsの機能でも行うことができます。

ご注意

- 書き込みに失敗したDVD、CDは読み込みできなくなります。書き込みに失敗したディスク、およびディスクに記録されていたデータの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の光学ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。

非常時のディスクの取り出しかた

[021606-21]

停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、非常時ディスク取り出し穴に針金などを押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金はペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

- 強制的にディスクを取り出す場合は、本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 光学ドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないといった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使用して取り出さないようにしてください。

SDメモリーカードスロット

[022700-21]

SDメモリーカードスロットの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

- ▶ 使用上の注意..... 97
- ▶ セットのしかた／取り出しかた..... 99



メモ

SDメモリーカードスロット搭載モデルをお使いの場合のみ、利用できます。

- お客様が画像、音楽、データなどを記録（録画・録音などを含む）したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、それぞれのSDメモリーカード製品に添付のマニュアルや取扱説明などの指示に従ってください。
- すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- 本機やSDメモリーカードの不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の補償はいたしかねます。
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所ではSDメモリーカードを使わないでください。
- 裏面に通電性（電気を通す性質）がある金属が使用されているSDメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。
- データの保存中にスリープ／休止状態にしないでください。また、本機がスリープ／休止状態にあるときは、メモリーカードを抜き差ししないでください。メモリーカード内のデータが破損する恐れがあります。また、誤動作の原因になります。
- データの保存中、または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。
- DVD、CDを再生中にメモリーカードへの読み書きを行ったり、メモリーカード内の音声や動画ファイルを再生中にファイルのコピーを行うと、音声や動画がとぎれるなどの影響が出る場合があります。
- 本機の内蔵ストレージ以外からSDメモリーカードにデータを保存する場合は、一度、本機の内蔵ストレージにデータを保存し、そこからSDメモリーカードにデータを保存してください。
- SDメモリーカードには、Windows標準のフォーマットやディスクデフラグを行わないでください。デジタルカメラなど、他のSDメモリーカード対応機器との互換性や性能に問題が生じる場合があります。
- SDメモリーカードは、SDメモリーカード容量規格(SD/SDHC/SDXC)に準拠したフォーマットがされており、すぐにお使いになれます。フォーマットが必要な場合は、SDメモリーカード規格に対応したデジタルカメラなどの機器、または、SD規格対応フォーマット機能を搭載したアプリなどでフォーマットを行ってください。デジタルカメラなどでのフォーマット方法については、ご使用の機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- 「microSDカード」「microSDHCカード」「microSDXCカード」をご使用の際、miniSDカード変換アダプタに装着し、さらにSDカード変換アダプタに装着しての動作は保証しておりません。
- 本機のSDメモリーカードスロットは、高速転送規格「UHS-II」はサポートしておりません。
- 本機のSDメモリーカードスロットは、SDメモリーカードスロット延長タイプのケーブルなど、SDメモリーカード以外でのご使用はサポートしておりません。
- 本機では、2Gバイトまでの「SDメモリーカード」、32Gバイトまでの「SDHCメモリーカード」、1Tバイトまでの「SDXCメモリーカード」および1Tバイトまでの「microSDXCメモリーカード」で動作確認を行っています。動作確認済みの容量を超えるメモリーカードでの動作は保証しておりません。

SDメモリーカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、SDメモリーカードスロットの有効／無効を設定して、使用を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 162\)](#)」

セットのしかた／取り出ししかた

[022702-21]



チェック

- ダミーカードがセットされている場合は、セットをする前に「取り外しかた」をご覧ください。ダミーカードを取り出してください。
- SDメモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、SDメモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。

セットのしかた

- 1 SDメモリーカードを向きに注意して、SDメモリーカードスロットに奥までしっかり差し込む**
表面を上にして差し込んでください。



参照

SDメモリーカードスロットについて
「各部の名称」 - 「各部の名称」の「左側面 (P. 17)」

取り外しかた

- 1 タスク バーの通知領域の  をクリックし、  をクリック**

- 2 表示される「×××××の取り出し」から、取り外すSDメモリーカードをクリック**

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示される「×××××の取り出し」に取り外すSDメモリーカードがない場合は手順3に進んでください。

- 3 SDメモリーカードを押す**

SDメモリーカードが飛び出します。


- 4 SDメモリーカードを水平に引き抜く**

本機の音量の調節や、サウンド機能に関する設定などについて説明しています。

▶ 音量の調節.	101
▶ マイクの設定.	104
▶ 音声の入出力先を変更する.	106
▶ AudioEngine™機能.	107

音量ミキサーを使う



Windowsの「音量ミキサー」で音量を調節することができます。

- 1 タスクバーの通知領域の  を右クリックし、表示されたメニューから「音量ミキサーを開く」をクリック


「音量ミキサー」が表示されます。

- 2 調節したいデバイスやアプリケーションの調整バーをスライドし、音量を調整する

キーボードで調節する

【+/F3】を押すと音量を大きく、【-/F2】を押すと音量を小さく調節することができます。

音声のオン/オフ（ミュート機能）

【/F1】を押すと、音声のオン/オフを切り替えることができます。



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 53\)](#)」

録音音量の調節

本機で録音音量を調節する場合は次の手順で行ってください。

- 1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する
- 2 「設定 (P. 9)」を表示する
- 3 「システム」をクリック
- 4 「サウンド」をクリック
- 5 「入力」欄の「入力デバイスを選択してください」から使用する録音デバイスを選択する



チェック


「ライン (Yamaha Audio Relay)」は選択しないでください。

6 「入力」欄の「デバイスのプロパティ」をクリック

7 「ボリューム」で録音音量を調節する

8 画面右上の×ボタンをクリック

マイクのオン/オフ

【/F4】を押すと、マイクのオン/オフを切り替えることができます。



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 53\)](#)」

サウンドの省電力機能

本機は、サウンドの省電力機能により音楽などの再生中の消費電力を節約することができます。
サウンドの省電力機能は、工場出荷時の状態で有効になっています。



チェック

サウンドの省電力機能が有効になっている場合、一部の音響効果の切り替えが遅い、効果が有効にならず再生時の音量が低くなるなどの影響が出る場合があります。

そのような場合は、次の手順でサウンドの省電力機能を無効にしてください。

1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

4 「再生」タブをクリック

5 「スピーカー」または「ヘッドフォン」を選択し、「プロパティ」をクリック

6 「詳細」タブの「このデバイスでオーディオのハードウェア アクセラレータを許可する」のチェックを外す

7 「OK」をクリック

8 「OK」をクリック



チェック

本機の入力機能としては、内蔵マイクとヘッドホンマイク（4極（CTIA）ミニプラグ）が使用できます。市販のステレオマイクやモノラルマイクは使用できません。

「Realtek Audio Console」で設定する

「Realtek Audio Console」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、マイクでの録音時のノイズ抑制やエコーの軽減の設定などが行えます。マイクの設定は、次の手順で行ってください。

1 ヘッドホン/ヘッドホンマイク ジャックにヘッドホンマイクを差し込む（ヘッドホンマイクを使用する場合）

2  をクリックし、スタートメニューから「Realtek Audio Console」をクリック

「Realtek Audio Console」が表示されます。

3 「録音デバイス」から任意のデバイスを選んでクリック

4 必要に応じて設定を行う

設定できる機能には次のものがあります。

機能	説明
全てオフ	すべてのマイク効果を無効にします。
一方向	音声通話を利用するときに最適な設定にします。キーボードのタイピング音を軽減します。
全方向	ネットワークを利用した大人数の会話をするときに最適な設定にします。キーボードのタイピング音を軽減します。
音声認識を強化	音声認識機能を利用するときに言語認識率を高める設定にします。
高品質録音	外部からの音楽などを高音質で録音するときに最適な設定にします。
音響エコーキャンセル※1	録音中にスピーカーが引き起こすエコーを軽減します。
遠くの音声を拾う※2	遠くの音声をより大きく録音します。
着信用ノイズキャンセル	音声通話を利用するときに、通話先からのノイズを軽減して相手の声を再生します。
マイクを使用するとき、自動的に有効にします	「着信用ノイズキャンセル」機能を、音声通話を利用するときに自動的に有効にします。

常にオン	「着信用ノイズキャンセル」機能を、常時有効にします。
------	----------------------------

※1 「一方向」、「全方向」、または「音声認識を強化」を選択した場合、ボタンが有効になります。

※2 「全方向」を選択した場合のみ、ボタンが有効になります。

5 設定が完了したら画面右上の×ボタンをクリック

以上でマイクの設定は完了です。

音声の入出力先を変更する

[021708-21]

音声入力または出力に対応した機器を本機に接続した場合、音声の入出力先を手動で変更することができます。
次の手順で行ってください。

1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する

2 「設定 (P. 9)」を表示する

3 「システム」をクリック

4 「サウンド」をクリック

5 「関連設定」欄の「サウンド コントロール パネル」をクリック

「サウンド」が表示されます。

6 「再生」または「録音」タブをクリック

7 任意のデバイスを選択して、「既定値に設定」ボタンをクリック



チェック

「ライン (Yamaha Audio Relay)」は既定値に設定しないでください。

8 「OK」ボタンをクリック

以上で音声の入出力先の設定は完了です。

内蔵スピーカーや接続したサウンド機器ごとに、利用状況に応じた最適な音響特性を設定できます。



チェック

AudioEngine™は、内蔵スピーカー、内蔵マイクおよびヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続された機器向けの機能です。USBオーディオデバイスやHDMI接続したディスプレイのスピーカーなど、他の方法で接続された機器では使用できません。

これらの機器を接続している場合は、本体内蔵のデバイス、またはヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続された機器を「既定のデバイス」に設定してください。

AudioEngine™機能の設定

本機では、「Yamahaサウンド設定」でAudioEngine™に関する設定ができます。



参照

Yamahaサウンド設定について

「便利な機能とアプリケーション」の「[Yamahaサウンド設定 \(P. 198\)](#)」

本機のLAN（ローカルエリアネットワーク）機能を使用する際の注意や設定などについて説明しています。

➤ 本機を安全にネットワークに接続するために.....	109
➤ 使用上の注意.....	110
➤ LANへの接続.....	111
➤ LAN機能の設定.....	113
➤ リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.....	115
➤ ネットワークブート機能（PXE機能）.....	118

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-21]

コンピューターウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（セキュリティとメンテナンス）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、本機のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピューターウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

ファイアウォールの利用

コンピューターウイルスによっては、ネットワークに接続ただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピューターウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準でファイアウォール機能が有効になっています。

使用上の注意

[021802-21]

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、LANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- LAN回線に接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようになしてください。バッテリーのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- システムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。



動作が不安定になったときは

休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ネットワークの通信中には休止状態にしないでください。通信状態のまま休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。Windowsの電源プランで自動的に休止状態になる設定にしている場合は、設定を解除してください。



参照

電源プランの設定の変更について

「電源の設定」 - 「電源プランの設定の変更 (P. 32)」

MACアドレスについて

MACアドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ネットワークに接続した状態で、次のコマンドを入力することで、LANまたは無線LANのMACアドレスを確認することができます。

コマンドプロンプトで次のいずれかのコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

コマンド	確認方法
net config workstation	「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（ ）内に表示されます。
ipconfig /all	アダプタごとに「物理アドレス」として表示されます。



メモ

MACアドレスは、ネットワークに接続した状態で「設定 (P. 9)」→「ネットワークとインターネット」→「状態」→「プロパティ」の「物理アドレス(MAC):」でも確認することができます。

本機には、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T（ギガビットイーサネット）対応のLAN機能が搭載されています。

LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などが必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、当社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

本機を有線ネットワークに接続するには、別売のLANケーブルが必要です。LANケーブルは、イーサネット規格に対応するカテゴリのLANケーブルを使用してください。また、ネットワーク側のコネクタに空きがない場合、スイッチングハブなどでコネクタを増やす必要があります。LANケーブルの接続は次の手順で行います。



チェック

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANアダプタは、接続先の機器との通信速度を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、LANアダプタのプロパティで通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重に設定してください。
- オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器でリンク速度を固定して接続する場合、「速度とデュプレックス/スピードと二重」の設定は「ハーフデュプレックス/半二重」に設定してください。「フルデュプレックス/全二重」に設定すると、通信速度が異常に遅かったり、通信ができないなどの問題が発生します。
- ネットワーク接続時、「セットアップを完了しましょう」と表示された場合は、「OK」をクリックします。その後表示される「Windows をよりいっそう活用できるようになります」画面で、「今はスキップ」をクリックしてください。



動作が不安定になったときは

省電力型イーサネット機能とは、データ通信が行われていないときに自動的に省電力状態に移行することで、消費電力を低減する機能です。

この機能を有効にしていると、省電力型イーサネット機能に対応したハブやルーターとLAN接続した場合に、ネットワークの通信速度が遅くなったり、ネットワークの動作が不安定になったりすることがあります。

その場合は、次の手順に従って省電力型イーサネット機能を無効にしてください。

1 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄の「省電力イーサネット」をクリック

6 「値」欄で「オフ」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 画面右上の×ボタンをクリック

1 本機の電源を切る

2 LANケーブルをLANコネクタ () に接続する



参照

LANコネクタの位置

「各部の名称」 - 「各部の名称」の「[左側面 \(P. 17\)](#)」

3 ハブなどのネットワーク機器に、LANケーブルのもう一方のコネクタを接続する

4 本機の電源を入れる

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。

ネットワーク接続のセットアップ

- 1 「コントロールパネル (P. 9)」を表示する
- 2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリック
- 3 左のメニューから「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「イーサネット」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック
- 5 「ネットワーク」タブで必要な構成要素の設定をする



メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

- 6 「OK」ボタンをクリック
- 7 画面右上の×ボタンをクリック
- 8 画面右上の×ボタンをクリック

以上でネットワーク接続のセットアップは完了です。
続いて、コンピューター名などの設定を行います。

接続するネットワークとコンピューター名の設定

接続するネットワークに関する設定と、ネットワークで表示されるコンピューター名を設定します。

- 1 「設定 (P. 9)」を表示する
- 2 「システム」をクリック
- 3 「詳細情報」をクリック

4 「関連設定」欄の「この PC の名前を変更 (詳細設定)」をクリック

5 「コンピューター名」タブの「変更」ボタンをクリック

6 「コンピューター名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に必要な情報を入力する



メモ

入力する情報がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

7 「OK」ボタンをクリック

「ワークグループ」を変更した場合は「xxxワークグループへようこそ。」(xxxは設定したワークグループ名)と表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

確認のメッセージが表示されます。

8 「OK」ボタンをクリック

9 「閉じる」ボタンをクリック

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック

本機が再起動します。

以上でLANの設定は完了です。

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能

[021805-21]

本機におけるLANによるリモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (以降、WoL) は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のコンピューターから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット (Magic Packet) を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のコンピューターが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者のコンピューターにMagic Packetを送信するためのソフトウェア (WebSAM Client Managerなど) のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了 (電源を切る) が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできない、またはWoLで起動してもLANが正常に動作しないことがあります。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- WoLを使用する場合はAuto-negotiation機能を搭載したハブを使用してください。
- 「高速スタートアップ」の機能が有効になっている場合、電源の切れている状態からWoLを利用することはできません。「本機の機能」の「電源」-「電源の入れ方と切り方」-「**高速スタートアップ**」について (P. 24) をご覧になり、「高速スタートアップ」の機能を無効に設定してください。
- WoLの設定を行った場合は、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機の電源が切れている状態にしてください。
- 休止状態からWoLを利用することはできません。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1 「BIOSセットアップユーティリティ (P. 10)」を表示する

2 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

- 5 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 6 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 7 表示されたLANアダプタをダブルクリック
- 8 「詳細設定」タブをクリック
- 9 「プロパティ」欄の「Wake from S0ix on Magic Packet」をクリック
- 10 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する
- 11 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック
- 12 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する
- 13 「OK」ボタンをクリック
- 14 画面右上の×ボタンをクリック

以上で設定は完了です。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除

電源が切れている状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

- 3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

- 4 「詳細設定」タブをクリック

- 5 「プロパティ」欄の「Wake from S0ix on Magic Packet」をクリック

- 6 「値」欄で「無効」が選択されていない場合は、「無効」を選択する

- 7 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

- 8 「値」欄で「無効」が選択されていない場合は、「無効」を選択する

- 9 「OK」ボタンをクリック

- 10 画面右上の×ボタンをクリック

- 11 再起動する

- 12 「BIOSセットアップユーティリティ (P. 10)」を表示する

- 13 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Disabled」に設定する

- 14 【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

- 15 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-21]

ネットワークから起動して管理者のコンピューターと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更



チェック

本機はUEFI機能をもつため、ネットワークブートを行う場合はネットワークブート用のサーバをUEFI用に変更する必要があります。

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 「BIOSセットアップユーティリティ（P. 10）」を表示する

2 「Advanced」メニューの「Network Stack」を「Enabled」に設定する

3 「Boot」メニューの「1st Boot」を「Network」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。

無線LAN (Wi-Fi) 機能

[021900-21]

本機の無線LAN機能の概要について説明しています。

▶ 本機を安全にネットワークに接続するために.	120
▶ 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意.	121
▶ 使用上の注意.	123
▶ 無線LAN機能のオン/オフ.	125
▶ 無線LANの設定と接続.	127

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-21]

コンピューターウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（セキュリティとメンテナンス）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、本機のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピューターウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

ファイアウォールの利用

コンピューターウイルスによっては、ネットワークに接続ただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピューターウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準でファイアウォール機能が有効になっています。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

[021902-21]

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューター等と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者によって、電波を故意に傍受され、

- IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者によって、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスされ、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 本機で設定できるセキュリティ

盗聴（傍受）を防ぐ

盗聴（傍受）から通信内容の悪用を防ぐため、Wi-Fi Allianceが提唱するWPA2またはWPA3機能を利用します。



チェック

WPA2またはWPA3機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA2またはWPA3機能をサポートしている必要があります。

不正アクセスを防ぐ

- IEEE802.1X/EAP (Extensible Authentication Protocol) 規格によるユーザー認証を行うことで、不正なユーザーのアクセスを防ぎます。
- 接続するコンピューターなどのMACアドレス (ネットワークカードが持っている固有の番号) を無線LANアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外は無線LANアクセスポイントに接続できなくなります (MACアドレスフィルタリング)。



参照

MACアドレスについて

「MACアドレスについて (P. 110)」

- 無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) を常に通知しないようにSSIDの隠ぺい機能 (ステルスモード) を設定することで第三者から容易に検出できないようにします。



チェック

IEEE802.1X/EAP (Extensible Authentication Protocol) を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境 (認証システム) が必要となります。

データの悪用を防ぐ

万が一、データを盗聴されたり詐取されたりした場合に、データの内容が解読されないようにデータ自身を暗号化して保護する対策を合わせてお使いください。

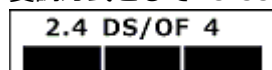
使用上の注意

[021903-21]

- 本製品はWi-Fi 6に対応しています。(IEEE802.11ac/a/b/g/nとは、下位互換性を維持しています。) WFA (Wi-Fi Alliance) が推奨する呼称と規格名との対応は以下の通りです。

呼称	規格名
Wi-Fi 6	IEEE802.11ax
Wi-Fi 5	IEEE802.11ac
Wi-Fi 4	IEEE802.11n

- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域(2.4GHz～2.4835GHz)を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域(2.427GHz～2.47075GHz)が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式とOFDM方式を採用しており、与干渉距離は40mです。



- 本製品には、小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品に内蔵されている無線設備は、5GHz(W52/W53/W56)帯域(5.15GHz～5.35GHz、5.47GHz～5.730GHz)を使用しており、以下のチャンネル(Ch)に対応しています(接続するワイヤレスLANアクセスポイントが対応している場合のみ利用可能)。

周波数帯域	チャンネル
5GHz(W52)帯:	Ch36 (5180MHz) ,Ch40 (5200MHz) ,Ch44 (5220MHz) ,Ch48 (5240MHz)
5GHz(W53)帯:	Ch52 (5260MHz) ,Ch56 (5280MHz) ,Ch60 (5300MHz) ,Ch64 (5320MHz)
5GHz(W56)帯:	Ch100 (5500MHz) ,Ch104 (5520MHz) ,Ch108 (5540MHz) ,Ch112 (5560MHz) ,Ch116 (5580MHz) ,Ch120 (5600MHz) ,Ch124 (5620MHz) ,Ch128 (5640MHz) ,Ch132 (5660MHz) ,Ch136 (5680MHz) ,Ch140 (5700MHz) ,Ch144 (5720MHz)

- 電波法により5GHz(W52/W53)帯は、屋内での利用に限定されます(法令により屋外利用を許可された無線機器と接続する場合を除く)。
- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。
分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。
また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格 (RCR STD-38)」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります(本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます)。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。

- 影響を受けている装置から本製品を離してください。
- 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気システムのコンセントから、本製品の電力を供給してください。
- 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。
詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。

無線LAN機能のオン/オフ

[021904-21]

無線LAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ▶ 機内モードを利用してすべてのワイヤレス デバイスを同時にオン/オフする. 125
- ▶ 無線LAN機能のみをオン/オフする. 126



メモ

- オン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。
- 外付けで接続した無線LANモジュールの無線LAN機能のオン/オフにも対応します。



チェック

- 無線LAN機能のオン/オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。
- 他の機器に影響を与える場合やワイヤレス機能を使用しない場合は、ワイヤレス機能をオフにすることをおすすめします。
- BIOSセットアップユーティリティで無線LAN機能そのものを無効にしている場合、これらの方法で内蔵の無線LAN機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティで無線LAN機能を有効に設定してから操作を行ってください。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」 および「設定項目一覧」

無線LAN機能のオン/オフは、タスクバーの通知領域の  または  をクリックして表示されるWi-Fiのタイルから確認することができます。

機内モードを利用してすべてのワイヤレス デバイスを同時にオン/オフする

無線LAN機能を含むすべてのワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能をオンにしたときに、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフの際、Bluetoothのドライバの組み込み/取り外しに時間がかかる場合があります。
再度、無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフを行う場合は、Bluetooth機能の切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。Bluetooth機能の切り替えが完了しないうちに、連続してオン/オフの操作を行わないようにしてください。



メモ

機内モードをオフにしても、無線LANまたはBluetoothが機能しない場合は、時間をおいてオン/オフを切り替えてみてください。

キーボードで切り替える

【Fn/F9】を押すことで、機内モードのオン/オフを切り替えることができます。



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 53)」

タスク バーのアイコンから切り替える


1 タスク バーの通知領域の 、 または  をクリック

2 機内モードアイコン ( または ) をクリックして、オンまたはオフを切り替える

無線LAN機能のみをオン/オフする

無線LAN機能のみのオン/オフを切り替えることができます。

1 タスク バーの通知領域の  または  をクリック

2 Wi-Fiアイコン ( または ) をクリックして、オンまたはオフを切り替える



チェック

機内モード中でも、無線LAN機能を個別にオンにしておくことができます。

無線LANの設定と接続

[021905-21]

- 無線LANをワイヤレス ネットワークに接続する..... 127
- 設定済みのワイヤレス ネットワークに接続する..... 131
- ワイヤレス ネットワーク接続を切断する..... 132

無線LANをワイヤレス ネットワークに接続する



メモ

- セキュリティ設定や周囲の無線環境によっては、接続までに時間がかかる場合や、通信速度が低下する場合があります。
- WPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応した無線LANアクセスポイントと接続する場合、PINの入力や、ルーターのボタンを押すことを要求する画面が表示されることがあります。これらの操作でも無線LANアクセスポイントと接続できますが、機器の組み合わせによっては接続に失敗することもありますので、その場合はセキュリティ キーを入力して接続を行ってください。
- WPSで接続する場合は、セキュリティが自動的に設定されます。設定されたセキュリティについては、無線LANアクセスポイントの設定画面かマニュアルなどで確認してください。
- PINの記載箇所については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



チェック

ネットワーク接続時、「セットアップを完了しましょう」と表示された場合は、「OK」をクリックします。その後表示される「Windows をよりいっそう活用できるようになります」画面で、「今はスキップ」をクリックしてください。

接続する機器によって、設定手順が異なります。お使いの環境にあわせて設定を行ってください。ネットワーク管理者の指示に従って接続してください。

ネットワーク名 (SSID) を通知する無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 タスク バーの通知領域の をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

- 表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。
- 無線LAN機能がオフになっている場合は、ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されません。「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 125)」

2 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名 (SSID) を確認してください。
- ネットワーク名 (SSID) が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名 (SSID) を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「ネットワーク名 (SSID) を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合 (P. 128)」の手順で設定を行ってください。

3 「自動的に接続」にチェックが付いていることを確認して、「接続」ボタンをクリック



メモ

自動的に接続する設定は、後から変更できます。

4 ネットワーク セキュリティ キーの入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「次へ」ボタンをクリック

これ以降は画面の指示に従って操作してください。



チェック

「閉じる」ボタンが表示された場合は、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

これで設定は完了です。

ネットワーク名 (SSID) を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 125)」

2 「コントロール パネル (P. 9)」を表示する

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック

5 「ワイヤレス ネットワークに手動で接続します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

6 接続先の無線LANアクセスポイントにあわせて設定を行う

- 「ネットワーク名」
接続先の無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) を入力します。
- 「セキュリティの種類」、「暗号化の種類」
接続先の無線LANアクセスポイントの設定にあわせて選択します。
- 「セキュリティ キー」
接続先の無線LANアクセスポイントに設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力します。
- 「この接続を自動的に開始します」
チェックを付けると、接続先が通信可能範囲にある場合、自動で接続するように設定されます。
- 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」
チェックを付けます。
警告：選択すると、このコンピューターのプライバシーが危険にさらされる可能性があります。

7 「次へ」ボタンをクリック

8 「正常に <ネットワーク名 (SSID) > を追加しました」と表示されたら、次の手順を行う

- 設定を変更しない場合
手順9に進んでください。
- 設定を変更する場合
「接続の設定を変更します」をクリックし、表示される画面で設定を行ってください。
設定が完了したら「OK」ボタンをクリックし、手順9へ進んでください。



チェック

接続先の無線LANアクセスポイントにWEPキーが設定されており、暗号化キー番号 (キーインデックス) が「1」以外に設定されている場合は、ここで設定を変更する必要があります。「接続の設定を変更します」をクリックし、「セキュリティ」タブの「キー インデックス」で設定を行ってください。

9 「閉じる」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

手順6で「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けなかった場合は、「設定済みのワイヤレス ネットワークに接続する (P. 131)」をご覧ください。

5GHzを使用しないで通信を行う場合

工場出荷時の状態では、2.4GHz/5GHzが使用できる設定になっています。屋外利用などで5GHzを使用しない場合は、次の手順で設定を変更してください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 3 表示された無線LANアダプタをダブルクリック
- 4 「詳細設定」タブをクリック
- 5 「プロパティ」欄で「802.11a/b/g ワイヤレスモード」を選択する
- 6 「値」から「4. 2.4 GHz 802.11b/g」を選択する
- 7 「OK」ボタンをクリック

これで設定は完了です。



メモ

設定変更後、再び5GHzを使用できる状態に戻したい場合は、次の手順で設定を変更します。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 3 表示された無線LANアダプタをダブルクリック
- 4 「詳細設定」タブをクリック
- 5 「プロパティ」欄で「802.11a/b/g ワイヤレスモード」を選択する
- 6 「値」から「6.デュアルバンド802.11a/b/g」を選択する
- 7 「OK」ボタンをクリック

設定済みのワイヤレス ネットワークに接続する

設定済みのワイヤレス ネットワークに接続するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のをクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

- 表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。
- 無線LAN機能がオフになっている場合は、ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されません。「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 125)」

2 接続先をクリックし、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

ワイヤレス ネットワーク接続を切断する

接続中のワイヤレス ネットワーク接続を切断するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のをクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 切断する接続先をクリックし、「切断」ボタンをクリック



メモ

現在接続中の接続先には「接続済み」と表示されています。



チェック

接続の状態の表示は、接続しているネットワークや接続状況により変化します。
切断したままにしておくには、「自動的に接続」のチェックを外しておく必要があります。

以上で切断は完了です。

[022000-21]

➤ 使用上の注意.....	134
➤ USB機器の取り付け／取り外し.....	135
➤ パワーオフUSB充電機能.....	137

使用上の注意

[022001-21]

- 本機のUSBコネクタには、USB 1.1対応機器、USB 2.0対応機器、USB 3.0対応機器、USB 3.1対応機器、USB 3.2対応機器が取り付け可能です。
対応する規格と異なるUSB機器をUSBコネクタに取り付けると、転送速度は規格に応じて変動します。
- USB機器の取り付け/取り外しを行うときは、5秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差したり半差しにしたりすると、正常に認識されないことがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、正しく差し直してください。
- 初めてUSB機器を取り付けたときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を取り外してください。USB機器を取り付けた状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- 省電力状態（スリープ状態や休止状態）の時や、省電力状態への移行中、省電力状態からの復帰中は、USB機器の取り付け/取り外しをしないでください。
- 省電力状態への移行中は、取り付けしているUSB機器を操作しないでください。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、USBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。USB機器を取り付けた状態でUSBハブを本機に取り付けると、USB機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャー」にある「ユニバーサル シリアル バス コントローラー」は削除、無効にしないでください。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに取り付けているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。
- Power Delivery規格に対応しているUSBコネクタに、USB Power Delivery対応の機器を接続すると、機器を充電できます。ただし、接続するケーブルや機器によっては正しく機能しないことがあります。



メモ

- 本機でのUSB機器の動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、取り付け可能なUSB対応機器については、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、ご確認ください。
<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>
- 取り付ける機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USB機器を制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効/無効を設定して、USB機器の使用を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 162)」

USB機器の取り付け／取り外し

[022002-21]

取り付けの前に

機器によっては、使用するためにドライバやアプリケーションのインストール、設定の変更などが必要になる場合があります。

USB機器に添付のマニュアルなどをご覧になり、必要な準備を行ってください。



メモ

- 取り付けてすぐ使うことができるUSB機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性があります。必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
- USB機器は、本機の電源を入れたままの状態でも取り付けることができます。取り付け前に電源を切る必要はありません。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、はじめにUSBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。

USB機器の取り付け

1 対応するUSBコネクタにプラグを差し込む

止まるまで軽く押し込んでください。



チェック

USBコネクタ (Type-A) の場合は、プラグの向きに注意してください。



参照

USBコネクタについて

「各部の名称」 - 「各部の名称」の「右側面 (P. 18)」、[「左側面 \(P. 17\)」](#)

取り付けたUSB機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、取り付けた後で別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USB機器の取り外し

1 タスクバーの通知領域のをクリックし、をクリック

このアイコンが表示されていない場合は手順3に進んでください。

2 表示された「×××××の取り出し」から、取り外したいUSB機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。
表示された「×××××の取り出し」に取り外したいUSB機器がない場合は手順3に進んでください。

3 USB機器を取り外す

以上でUSB機器の取り外しは完了です。

パワーオフUSB充電機能

[022003-21]

本機はパワーオフUSB充電機能に対応しています。パワーオフUSB充電機能に対応したUSBコネクタを使用することで、本機の電源が切れた状態でもUSBケーブルを使って充電できる機器を充電することができます。



チェック

- この機能を使用するには、BIOSセットアップユーティリティでの設定が有効になっている必要があります。
- ACアダプタを接続していない場合、本体のバッテリー残量が少なくなると、パワーオフUSB充電機能は自動で停止します。
また、ACアダプタを接続している場合でも、本体のバッテリーへの充電を優先させるために、一時的にパワーオフUSB充電機能が使用できない場合があります。本体のバッテリーが一定量充電されると、パワーオフUSB充電機能は自動で再開します。



参照

- **パワーオフUSB充電機能対応USBコネクタの位置について**
「各部の名称」 - 「各部の名称」の「[左側面 \(P. 17\)](#)」
- **BIOSセットアップユーティリティについて**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「[設定項目一覧](#)」

別売の増設RAMボード（以降、メモリ）の取り付けかた／取り外しかたや増設後の確認方法について説明しています。

➤ 取り付け前の確認.....	139
➤ メモリの取り付け／取り外し.....	140
➤ メモリ変更時の確認.....	146

取り付けられるメモリ



チェック

- 増設RAMボード（メモリ）を本機に取り付ける場合、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、取り付け可能となっているメモリを必ずお使いください。
<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>
- 市販のメモリに関する動作保証やサポートはNECでは行っていません。販売元にお問い合わせください。
- 最大32GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によって利用可能なメモリ容量は異なります。

メモリの取り付け／取り外し

[022202-21]



チェック

- メモリは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態でメモリを扱っていると破損する原因になります。メモリに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- メモリのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- メモリを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部やメモリが故障する原因になります。取り付け方向に注意してください。
- 取り付け前に、本機で使用できるメモリであることを確認してください。
- メモリスロットのカバーのネジを外すため、プラスドライバーを用意してください。
- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、「高速スタートアップ」の機能を無効にしてください。詳しくは、「[高速スタートアップ](#)」について (P. 24) をご覧ください。

メモリの取り付け

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリーパックを本体から取り外す

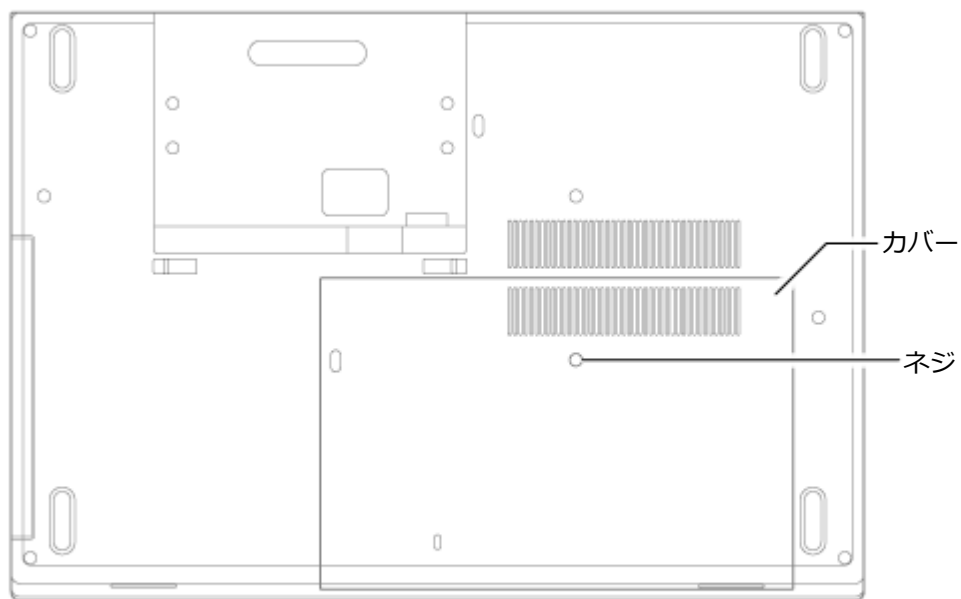


参照

バッテリーパックの取り外しについて

「バッテリー」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し](#) (P. 45)」

5 図のネジをプラスドライバーで取り外す



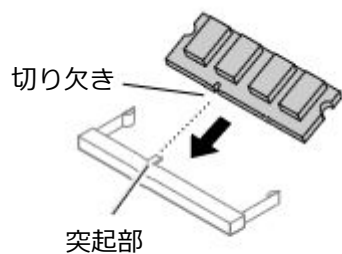
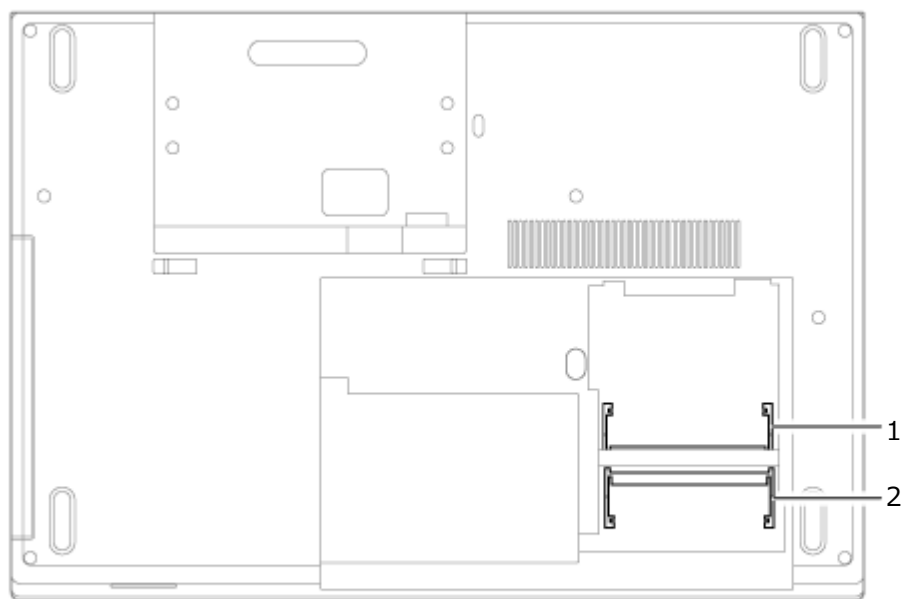
6 カバーを本体前面側にスライドさせ、止まったところでそのまま持ち上げて外す

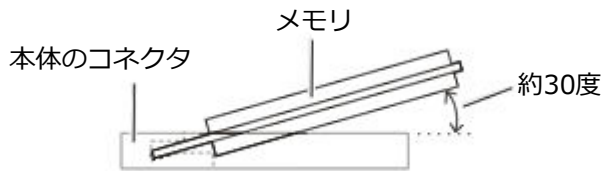
7 メモリの切り欠き部分を本体のコネクタの突起部に合わせ、本体のコネクタに対して約30度の挿入角度で、メモリの端子が当たるまで挿入する



チェック

- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。メモリを手を持つ際は、メモリの両端面を持つようにしてください。
- メモリの表と裏が逆の場合は、メモリの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
- 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。
- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- コネクタへの取り付けは下図 1、2 の順番で取り付けてください。

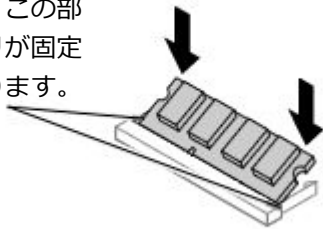




※横から見たところ

8 カチッと音がする位置までメモリを本体のコネクタに強く押し込む

メモリを押し込むとき、この部分が左右に開き、メモリが固定されると元の位置に戻ります。

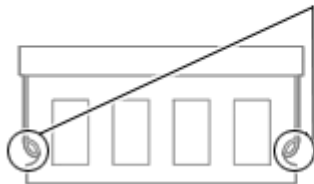


実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

両方がロックされ、メモリがコネクタにしっかり固定されたことを確認してください。



9 カバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 45)」

以上でメモリの取り付けは完了です。



メモ

メモリを取り付けた後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 146\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリの取り外し

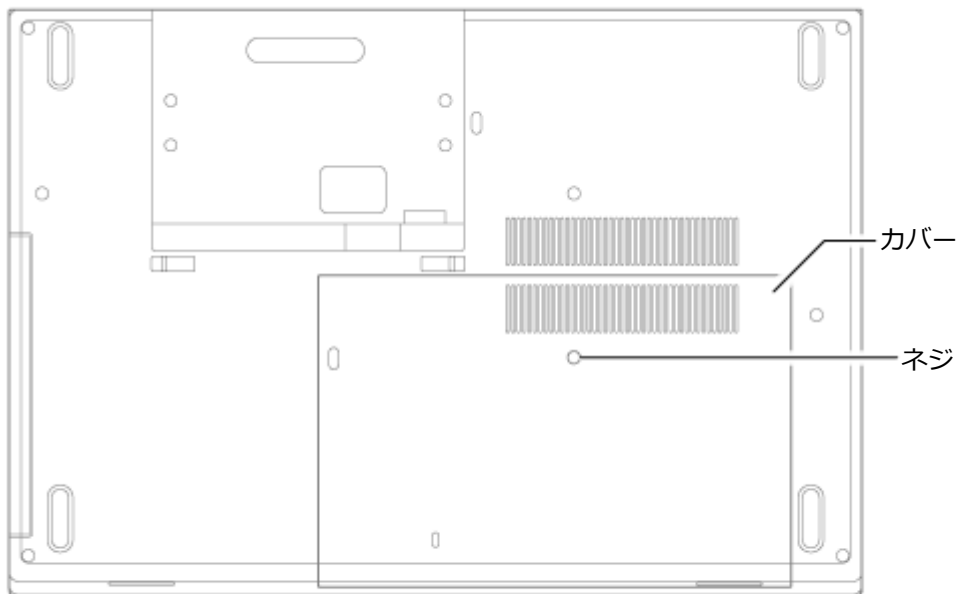
- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックを本体から取り外す



参照

バッテリーパックの取り外しについて
「[バッテリー](#)」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 45\)](#)」

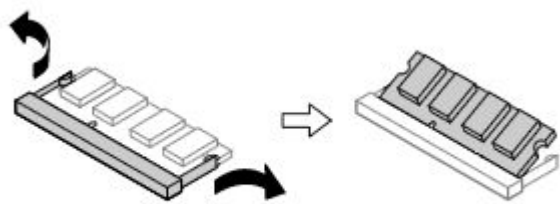
- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外す



- 6 カバーを本体前面側にスライドさせ、止まったところでそのまま持ち上げて外す

7 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

メモリが図のように起き上がります。



実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

8 そのままメモリを斜めに引き抜く

9 カバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 45)」

以上でメモリの取り外しは完了です。



メモ

メモリを取り外した後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 146\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ変更時の確認

[022203-21]

メモリの取り付け／取り外しが正しく行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「システム」をクリック

3 「詳細情報」をクリック

「デバイスの仕様」欄の「実装 RAM」に表示されている「*** GB」が総メモリ容量です。

メモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、再度確認してください。



チェック

- 最大32GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
- BIOSセットアップユーティリティの「Main」メニューでも、確認することができます。
- メモリを増設した後に休止状態の機能を使用する場合は、増設したメモリ容量分の内蔵ストレージの空き領域が必要です。

本機のBluetooth機能について説明しています。

▶ 概要.....	148
▶ セキュリティに関するご注意.....	149
▶ 使用上の注意.....	150
▶ Bluetooth機能のオン/オフ.....	152
▶ Bluetooth機能の設定と接続.....	154

Bluetooth機能について

Bluetooth（ワイヤレステクノロジー）機能は、Bluetoothワイヤレステクノロジーが搭載された機器とデータ通信を行うBluetooth Special Interest Group（SIG）が策定した世界標準の通信規格です。

接続できる機器

Bluetooth Smart Device機器 および Bluetooth Smart Ready機器と接続可能です。接続先のBluetooth機器も同じ仕様(バージョン)に対応している必要があります。バージョン2.1対応以降の機器については、下位互換の範囲で接続可能な場合がありますが、すべてのBluetooth機器に対して動作を保証するものではありません。必ずご購入前に接続の可否と対応機能をご確認ください。

対応しているBluetoothプロファイルについては、下記のURLに掲載されている「Bluetooth® 仕様一覧」をご覧ください。

<https://jpn.nec.com/products/bizpc/performance/lan.html>



チェック

- Bluetooth機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- 同時に利用するBluetooth機器の台数が多い場合、通信負荷が大きくなり動作に影響をおよぼすことがあります。
- Bluetooth機器によっては、複数同時に使用できない仕様のものがあります。
- 同じ種類のBluetooth機器でも機能差がある場合があります。
- Bluetooth機能は、すべてのBluetooth機器に対して動作を保証するものではありません。Bluetooth機器の動作環境と接続の可否を確認してください。
- 通信する相手の機器により通信距離（1～10m）は変化します。また、データ通信タイミングを必要とする音楽データ・音声データなどは、電波が安定するより近い距離でご使用ください。
- BR（Basic Rate）、EDR（Enhanced Data Rate）、LE（Low Energy）の各通信モードに対応していません。

セキュリティに関するご注意

[023102-21]

Bluetooth機能では、セキュリティを確保するため、機器ごとに割り振られた固有のIDで機器の識別をしています。さらにパスコード（PINコード）を設定して接続認証を行ったり、通信データを暗号化することで通信を傍受された場合にもデータの内容を守ることができます。また、通信中に使用する周波数帯域を接続単位ごとにランダムに変更しながら通信することで通信傍受されにくくなっています。



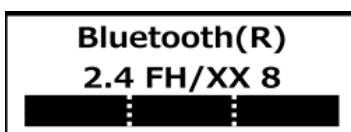
チェック

- これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。
- 身に覚えのない接続を要求された場合は、無視するか受付をしないでください。
- 常に使用しないBluetooth機器の接続は、切断しておくことをおすすめします。

使用上の注意

[023103-21]

- 接続相手と通信中（ファイル転送中やプリンタで印刷中、オーディオ機器で音楽再生中など）に、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 本製品に標準内蔵以外のBluetooth® ワイヤレステクノロジー機器をセットアップして使用しないでください。
- Bluetooth対応オーディオ機器をご使用になる場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。本機を用いて著作権保護されたデータのコピーを作成することは違法となる場合があります。
- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）と重複しており、この重複する周波数帯での干渉を回避することができません。変調方式としてFH-SS方式およびその他の方式を採用しており、与干渉距離は80mです。



- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人 電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機等、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 影響を受けている装置から本製品を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気システムのコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。詳しくは、ご使用場所の管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。
- 本製品は、Bluetooth® パスコード（PINコード）や暗号化機能等を使用することにより、無線ネットワークでの不正アクセスを防止することが可能ですが、日頃から接続デバイスの管理をされることをおすすめします。

- 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因になるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーを装備されている方は、本商品をペースメーカー装置部から30cm以上離して使用してください。
- その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、NECまたはご購入元にお問い合わせください。

Bluetooth機能のオン/オフ

[023105-21]

Bluetooth機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ▶ 機内モードを利用してすべてのワイヤレス デバイスを同時にオン/オフする. 152
- ▶ Bluetooth機能のみをオン/オフする. 153



チェック

- 他の機器に影響を与える場合やBluetooth機能を使用しない場合、Bluetooth機能が使用できない環境で本機を使用する場合は、Bluetooth機能をオフにしてください。
- BIOSセットアップユーティリティでBluetooth機能そのものを無効にしている場合、これらの方法でBluetooth機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティでBluetooth機能を有効に設定してから操作を行ってください。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」-「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

Bluetooth機能の状態については、タスク バーの通知領域の  をクリックして表示されるアイコンで確認できます。

アイコン	Bluetooth機能の状態
	スタンバイ/動作中
アイコン無し	オフ

機内モードを利用してすべてのワイヤレス デバイスを同時にオン/オフする


Bluetooth機能を含むすべてのワイヤレス機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、Bluetooth機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- Bluetooth機能を含むワイヤレス機能をオンにした時に、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- Bluetooth機能のオン/オフ切り替え時、ドライバの組み込み/取り外しに時間がかかる場合があります。再度、Bluetooth機能のオン/オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。切り替えが完了しないうちに、連続してオン/オフの操作を行わないようにしてください。

キーボードで切り替える

【/F9】を押すことで、機内モードのオン/オフを切り替えることができます。



参照



キーの使い方について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 53\)](#)」

Bluetooth機能のみをオン/オフする

Bluetooth機能のみのオン/オフを切り換えることができます。

1 「[アクションセンター \(P. 9\)](#)」を表示する

2 Bluetoothアイコン（ または ）をクリックして、オンまたはオフを切り替える



チェック

Bluetoothをオンにした場合、接続状況によってアイコンの表記が変化します。



メモ

安定した通信のため、次の点にご注意ください。

- 本機と接続するBluetooth機器との距離は、できるだけ近くする
- 接続するBluetooth機器との間に障害物を置かないようにする
- 金属製の棚などで本機を使用しない
- 通信中は近くで同じ周波数帯域を使用する電子レンジや他の無線機器を使用しない

Bluetooth機器の接続

Bluetooth機器を接続するときは、機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

1 接続するBluetooth機器を接続可能な状態にする

2 「設定 (P. 9)」を表示する

3 「デバイス」をクリック

4 「Bluetooth とその他のデバイス」をクリック

5 「+ Bluetooth またはその他のデバイスを追加する」をクリック

6 「Bluetooth」をクリック

7 接続するBluetooth機器をクリック

これ以降は画面の指示に従って操作してください。





チェック

デバイスの追加で認証エラーが発生し自動で接続できない場合には、以下の操作をお試しください。

- 接続を一度キャンセルし、再度、接続するBluetooth機器をクリックする。
- PINの入力を求められた場合、デバイスのマニュアルにパスコード (PINコード) が記載されている場合は、パスコード (PINコード) を入力してください。パスコード (PINコード) がない場合は、入力しないまま接続を繰り返してください。



メモ

登録済みのデバイスを確認する場合は、タスクバーの通知領域の  をクリックして表示される  をクリックし、「Bluetooth デバイスの表示」をクリックして一覧を開いて確認してください。



チェック

- ドライバのインストール中に本機の動作が遅くなる場合があります。
- ドライバによっては再起動を求められる場合があります。
- Bluetooth対応オーディオ機器を使用する場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。
- Bluetooth機器によってサポートしている機能に差分があったりアプリケーションソフトが対応できなかったりする場合がありますので、ご購入前にサポート機能の確認を行ってください。



メモ

- Bluetooth対応オーディオ機器（ステレオヘッドフォンなど）を接続していて音が切れる（音飛びする）場合は、一度切断して本機のBluetooth側から再接続することをおすすめします。これはオーディオ機器によるホスト処理の負荷が高いため、遅れが出る場合があるからです。解決しない場合は、本機と接続機器の距離を近くするか、バッテリー駆動の機器の場合はバッテリー容量の残量を確認してください。
- 無線LANを使用していない（アクセスポイントに接続していない）ときに、接続しているBluetooth機器の動作が不安定（オーディオ機器のノイズ、マウスのカクツキなど）な場合は、無線LAN機能のみをオフにしてください。システム処理の負荷を軽減することができます。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「無線LAN (Wi-Fi) 機能」の「[無線LAN機能のオン/オフ \(P. 125\)](#)」

Bluetooth機能の設定を変更する

必要に応じてBluetooth機能の設定を変更することができます。設定の変更は次の手順で行ってください。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「デバイス」をクリック

3 「Bluetooth とその他のデバイス」をクリック

4 「関連設定」欄の「その他の Bluetooth オプション」をクリック

5 表示された画面で設定を行う



チェック

接続したBluetooth機器の設定変更の方法は、機器に添付のマニュアルを参照ください。

6 「OK」 ボタンをクリック

Bluetooth接続でのファイルの送受信

Bluetooth機器間で一時的に小さなファイルを簡単にやりとりすることができます。



チェック

あらかじめ、Bluetooth機器を接続しておく必要があります。

送信または受信それぞれの場合に合わせて、接続先の機器マニュアルをご覧になり、準備してください。

ファイルの送信

ファイルの送信は次の手順で行います。



メモ

- 受信側のBluetooth機器によっては、ファイルを送信する前に、受信側でファイルを受け取る操作を行う必要があります。
- 受信側のBluetooth機器でのファイル受信については、機器により異なるので受信側の機器のマニュアルをご覧ください。

1 送信するファイルを右クリックし、表示されたメニューから「送る」→「Bluetooth デバイス」をクリック



チェック

複数のファイルをまとめて送信したい場合でも、フォルダの送信はできません。ファイルを送信してください。

2 リストに表示される送信先のデバイスを選択し、「次へ」 ボタンをクリック

3 受信側（送信先）でファイルの受け取りを操作する

受信側で受信を行うと、「Bluetooth ファイル転送」上でファイルの送信が開始されます。「ファイルが正しく転送されました」と表示されれば送信終了です。

4 「完了」 ボタンをクリック

ファイルの受信



チェック

接続したBluetooth機器の設定変更の方法は、機器に添付のマニュアルを参照ください。

- 1 「設定 (P. 9)」を表示する
- 2 「デバイス」をクリック
- 3 「Bluetooth とその他のデバイス」をクリック
- 4 「関連設定」欄の「Bluetooth でファイルを送信または受信する」をクリック
「Bluetooth ファイル転送」画面が表示されます。
- 5 「ファイルを受信する」をクリック
- 6 送信側で送信する
「デバイスの追加」が表示された場合は、クリックし手順にしたがってください。
- 7 「受信したファイルの保存」でファイルの保存先を選択し、「完了」をクリックする

Bluetooth機器の接続の切断

接続先のデバイスのマニュアルを参照し、切断してください。

Bluetooth機器の登録削除

使用しないBluetooth機器の登録を削除する場合は、次の手順で行います。

- 1 「設定 (P. 9)」を表示する
- 2 「デバイス」をクリック
- 3 「Bluetooth とその他のデバイス」をクリック
- 4 登録を削除したいBluetooth機器をクリックし、「デバイスの削除」ボタンをクリック
- 5 「このデバイスを削除しますか？」と表示されたら「はい」ボタンをクリック

セキュリティ機能

[022500-21]

本機で利用可能なセキュリティ機能について説明しています。

➤ セキュリティ機能について.....	159
➤ スーパバイザパスワード/ユーザパスワード.....	160
➤ ハードディスクパスワード機能.....	161
➤ I/O制限.....	162
➤ 顔認証機能.....	163
➤ 指紋認証機能.....	166
➤ 盗難防止用ロック.....	169
➤ セキュリティチップ機能.....	170

セキュリティ機能について

[022501-21]

本機には、情報セキュリティリスクから本機を保護し、安全にお使いいただくためのセキュリティ機能があります。



チェック

本機の各種セキュリティ機能は、完全なセキュリティを保証するものではありません。セキュリティ機能を使用している場合でも、重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード

[022502-21]

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティの起動や設定、本機の使用を制限するためのパスワードです。

BIOSセットアップユーティリティの使用者の制限

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定すると、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示されます。スーパーバイザパスワードまたはユーザパスワードを入力しない限り、BIOSセットアップユーティリティは起動できません。

また、ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定可能な項目が制限されます。本機の管理者と使用者が異なるときに、使用者が設定変更してしまうことを防止する場合などに有効です。

本機の不正使用の防止（BIOS認証）

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定し、BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューで「Password Check」を「Always」に変更してください。

本機の起動時にパスワード入力画面が表示され、本機を使用するにはスーパーバイザパスワードまたはユーザパスワードの入力が必要になります。



チェック

- ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていなければ設定できません。
- NECに本機の修理を依頼される際は、設定してあるパスワードは解除しておいてください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。



参照

- **BIOSセットアップユーティリティについて**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- **パスワードで使用できる文字について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

ハードディスクパスワード機能

[022503-21]

本機の内蔵ストレージにハードディスクパスワードを設定することで、本機の内蔵ストレージを本機以外のコンピューターに取り付けて使用するときパスワードの入力が必要になり、不正使用や重要なデータの漏えいを防止できます。

ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。

■ ハードディスクマスタパスワード

管理者が内蔵ストレージの認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うためのパスワードです。

■ ハードディスクユーザパスワード

使用者が内蔵ストレージの認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うためのパスワードです。



チェック

- ハードディスクパスワードは必ずハードディスクマスタパスワード/ハードディスクユーザパスワードの両方を設定してください。
- ハードディスクユーザパスワードは、ハードディスクマスタパスワードが設定されていない場合は設定できません。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したハードディスクパスワードは解除または無効にしておいてください。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際に、本機が起動できずにハードディスクパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、新しいハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードを設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。内蔵ストレージに保存されているデータは二度と使用できなくなり、内蔵ストレージも有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。



参照

- **ハードディスクパスワードの設定について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「[Security] メニュー」
- **パスワードで使用できる文字について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「[Security] メニュー」

I/O制限

[022504-21]

本機では、BIOSセットアップユーティリティで、各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限することができます。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスや、システムに影響を及ぼすアプリケーションのインストールを制限することができます。



参照

I/O制限について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Advanced」メニュー」

顔認証とはパスワード入力の代わりに、Webカメラ（IR対応）を使用して顔による認証を行うシステムです。



チェック

- 本体内蔵のWebカメラ（IR対応）でのWindows Hello（顔認証）に対応しております。
- 顔認証機能はWebカメラ（IR対応）搭載モデルのみ使用できます。
- 顔認証機能を使用する場合は、プライバシーシャッターを開けてください。
- BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューの「Enhanced Windows Biometric Security」を「Disabled」に設定してください。
- BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Device Configuration」で「Internal Camera」が「Disabled」に設定されている場合は、顔認証機能を使用することができません。



参照

- **プライバシーシャッターの位置について**
「各部の名称」 - 「各部の名称」の「ディスプレイ周辺 (P. 16)」
- **BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

使用上の注意

- 顔認証機能は、安全性を100%保証するものではありません。
- 顔認証機能は屋内での使用をお勧めします。直接日差しが当たる場所や窓際付近での使用は避けてください。太陽光の影響により、顔の登録やWindowsのサインインができない場合があります。
- 本機に搭載のカメラは、人の顔を認識した際、顔に最適化した露出補正を自動的に行います。周囲の明るさと人の顔の明るさの差がある場合には周囲の露出が適正にならない映像になる場合があります。
- 顔の登録やWindowsのサインイン時は、本機から離れすぎないようにしてください。
- 登録したデータと異なる状態（眼鏡などを装着している、または外している）では、顔認証ができない場合があります。その場合は登録時と同様の状態でお試してください。また、複数の状態を登録することで、認証精度を高めることが可能です。

顔の登録方法



チェック

顔を登録する場合、暗証番号（PIN）の設定が必要です。

1

「設定 (P. 9)」を表示する

2

「アカウント」をクリック

3

「サインイン オプション」をクリック

4

「Windows Hello 暗証番号（PIN）」をクリックし、「追加」をクリック

これ以降は画面の指示に従ってください。

1

「設定 (P. 9)」を表示する

2

「アカウント」をクリック

3

「サインイン オプション」をクリック

4

「Windows Hello 顔認証」をクリック

5

「セットアップ」をクリック

6

「開始する」をクリック

7

暗証番号（PIN）を入力する

8

顔を登録する

画面の指示に従って登録を行ってください。

顔の登録が完了すると「すべて完了しました。」画面が表示されます。



メモ

認証精度を高めたい場合は、「精度を高める」から複数の状態を登録してください。

9

「閉じる」をクリック

以上で顔の登録は完了です。



メモ

「Windows Hello 顔認証」の「顔を認識したら自動的にロック画面を解除します。」をオンにすると、顔認証機能を使用してWindowsにサインインする時に、キーボード操作などをせずにサインインすることができます。

指紋認証機能

[022516-21]

内蔵指紋センサーモデルでは、電源スイッチに内蔵指紋センサーが搭載されています。指紋を登録し、Windowsや対応するアプリ、サービスへのサインインを、パスワードを入力する代わりに指紋認証で行うことができます。個人特有の生体情報を使用するので、強いセキュリティと利便性の両方を確保できます。



チェック

- 指紋認証機能は内蔵指紋センサーモデルのみ使用できます。
- 本体内蔵の指紋センサーでのWindows Hello（指紋認証）に対応しております。
- 指紋認証でのサインインを設定している場合、電源を入れるときや、休止状態から復帰するときに登録した指で電源スイッチを押すと、指紋認証が同時におこなわれ自動でサインインできます。また、スリープ状態から復帰するときは指紋センサーをタッチするだけで自動でサインインできます。ロック画面で再度内蔵指紋センサーにタッチする必要はありません。
- 自動でサインインができなかった場合は、登録した指で内蔵指紋センサーにタッチするか、指紋認証以外の方法でサインインしてください。

使用上の注意

- 指紋認証機能は、安全性を100%保証するものではありません。
- 内蔵指紋センサーにタッチするときは、軽くタッチするようにし、電源スイッチを押さないようにしてください。本機の電源が切れたり、スリープ状態になる場合があります。

指紋の登録時

指紋の登録は登録しやすい指を、複数本登録されることをおすすめします。次のような場合は、指紋の登録が難しいことがあります。

- 汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている
- 極端に乾いている
- 指紋が小さすぎる
- 指紋が大きすぎる
- 指紋が渦を巻いていない
- 手が荒れている
- 摩耗により指紋が薄い

汗や脂が多い場合には指をよく拭き、手荒れや乾いている場合にはクリームなどを塗ることにより改善されます。また、指先が小さい場合は、なるべく大きな親指などで登録してください。

指紋の読み取り時

次のような場合には、指紋の特徴が変化し、照合時に不一致が起きやすくなります。

- 夏期など、汗や脂が多い場合
- 冬期など、極端に乾いている場合

- 手が荒れたり、けがをした場合
- 急に太ったり、痩せたりした場合

登録が難しい場合は、照合時にも不一致がおきやすい傾向があります。

指紋の登録方法



チェック

指紋を登録する場合、暗証番号（PIN）の設定が必要です。

- 1 「設定 (P. 9)」を表示する
- 2 「アカウント」をクリック
- 3 「サインイン オプション」をクリック
- 4 「Windows Hello 暗証番号 (PIN)」をクリックし、「追加」をクリック

これ以降は画面の指示に従ってください。

- 1 「設定 (P. 9)」を表示する
- 2 「アカウント」をクリック
- 3 「サインイン オプション」をクリック
- 4 「Windows Hello 指紋認証」をクリックし、「セットアップ」をクリック
- 5 「開始する」をクリック
- 6 暗証番号（PIN）を入力する
- 7 指紋を読み取る



チェック

指紋の読み取りは、必ず同じ指で行ってください。

画面の指示に従って登録を行ってください。

指紋の登録が完了すると「すべて完了しました。」画面が表示されます。

指紋の読み取り方については、「[指紋の読み取り方 \(P. 168\)](#)」をご覧ください。



メモ

他の指の指紋を設定したい場合は、「別の指を追加」から新しい指紋を登録してください。

8 「閉じる」をクリック

以上で指紋の登録は完了です。

指紋の読み取り方

指紋センサーの高い照合精度を維持するために、下記を参照ください。

1 読み取る指の指紋をセンサーに密着させ、認識させてから離す

スキャンが完了するまで同じ指を置いて離す作業を繰り返します。



メモ

何度も読み取りに失敗する場合は、再度指紋を登録し直してください。



チェック

- 指が汚れたり、汗や脂などで濡れている場合は、ハンカチなどで指先を拭いてから指紋の読み取りを行ってください。
- センサーは直接指で触れるため、指の汚れが付着します。常にセンサーをきれいにしてください。



参照

指紋センサーのお手入れについて

『メンテナンスとアフターケアについて』

間違った指紋の読み取り方

- 指先しか触れていない（指を立て過ぎている）。
- 途中でセンサーから指が浮く。
- 指が斜めに傾いている。

盗難防止用ロック

[022505-21]

別売のセキュリティケーブルを利用することで、本機を机などに繋ぐことができ、本機の盗難防止に効果的です。対応しているセキュリティケーブルについては、「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「周辺機器適合」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>



チェック

当社製セキュリティケーブル（PK-SC/CA01）は、本機では使用できません。



参照

盗難防止用ロックについて

「各部の名称」 - 「各部の名称」の「右側面 (P. 18)」

セキュリティチップ機能

[022509-21]

本機はTPM (Trusted Platform Module) と呼ばれるセキュリティチップを実装しており、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、内蔵ストレージを取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。



チェック

- セキュリティチップは、データやハードウェアの完全な保護を保証していません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意して、運用を行ってください。
- 「PCのリセット」、再セットアップを行った場合は、セキュリティチップの初期化を行ってください。

マネジメント機能

[022600-21]

本機で利用可能なマネジメント機能について説明しています。

➤ マネジメント機能について.	172
➤ リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能.	173
➤ ネットワークブート機能 (PXE機能)	176
➤ インテル vPro® プラットフォーム.	177
➤ インテル® Standard Manageability.	178

マネジメント機能について

[022601-21]

本機には、システム管理者のコンピューターからネットワークに接続された他のコンピューターの電源やシステムを遠隔操作して管理するためのマネジメント機能があります。

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能

[021805-21]

本機におけるLANによるリモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (以降、WoL) は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のコンピューターから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット (Magic Packet) を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のコンピューターが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者のコンピューターにMagic Packetを送信するためのソフトウェア (WebSAM Client Managerなど) のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了 (電源を切る) が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできない、またはWoLで起動してもLANが正常に動作しないことがあります。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- WoLを使用する場合はAuto-negotiation機能を搭載したハブを使用してください。
- 「高速スタートアップ」の機能が有効になっている場合、電源の切れている状態からWoLを利用することはできません。「本機の機能」の「電源」-「電源の入れ方と切り方」-「**高速スタートアップ**」について (P. 24) をご覧になり、「高速スタートアップ」の機能を無効に設定してください。
- WoLの設定を行った場合は、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機の電源が切れている状態にしてください。
- 休止状態からWoLを利用することはできません。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1 「BIOSセットアップユーティリティ (P. 10)」を表示する

2 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

- 5 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 6 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック
- 7 表示されたLANアダプタをダブルクリック
- 8 「詳細設定」タブをクリック
- 9 「プロパティ」欄の「Wake from S0ix on Magic Packet」をクリック
- 10 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する
- 11 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック
- 12 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する
- 13 「OK」ボタンをクリック
- 14 画面右上の×ボタンをクリック

以上で設定は完了です。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除

電源が切れている状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 9)」を開く
- 2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

- 3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

- 4 「詳細設定」タブをクリック

- 5 「プロパティ」欄の「Wake from S0ix on Magic Packet」をクリック

- 6 「値」欄で「無効」が選択されていない場合は、「無効」を選択する

- 7 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

- 8 「値」欄で「無効」が選択されていない場合は、「無効」を選択する

- 9 「OK」ボタンをクリック

- 10 画面右上の×ボタンをクリック

- 11 再起動する

- 12 「BIOSセットアップユーティリティ (P. 10)」を表示する

- 13 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Disabled」に設定する

- 14 【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

- 15 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-21]

ネットワークから起動して管理者のコンピューターと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更



チェック

本機はUEFI機能をもつため、ネットワークブートを行う場合はネットワークブート用のサーバをUEFI用に変更する必要があります。

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 「BIOSセットアップユーティリティ（P. 10）」を表示する

2 「Advanced」メニューの「Network Stack」を「Enabled」に設定する

3 「Boot」メニューの「1st Boot」を「Network」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。



チェック

インテル vPro® Essentials プラットフォーム対応モデルのみ使用できます。

高水準の運用管理性を提供するプラットフォーム技術です。

別途インテル vPro® プラットフォームに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。



参照

インテル vPro® プラットフォームの設定について

- 「インテル® Standard Manageability (P. 178)」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Advanced」メニュー」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionの設定項目一覧」

インテル® Standard Manageabilityに対応した運用管理ソフトウェアによる高水準の運用管理機能を利用できます。



チェック

- インテル® Standard Manageabilityはインテル vPro® Essentials プラットフォーム対応モデルのみサポートされています。
- インテル® Standard Manageabilityを使用する場合、別途、インテル® Standard Manageabilityに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。

インテル® Standard Manageabilityを利用するには、BIOSセットアップユーティリティでインテル® Standard Manageabilityを有効に設定する必要があります。

インテル® Standard Manageabilityを有効にする

1 「BIOSセットアップユーティリティ (P. 10)」を表示する

2 「Advanced」メニューの「Intel(R) Standard Manageability」で、「ISM Features」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でインテル® Standard Manageabilityが有効になりました。



参照

インテル® Standard Manageabilityの設定について

- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Advanced」メニュー
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionの設定項目一覧」

セキュリティチップ

[040000-21]

- ▶ セキュリティチップを初期化する. 180
- ▶ 辞書攻撃防御機能. 181
- ▶ 本機を修理に出した後. 182

セキュリティチップを初期化する

[040206-21]

次の手順で、セキュリティチップを初期化してください。

WindowsのBitLocker ドライブ暗号化を利用している場合は、BitLocker ドライブ暗号化を無効にしてからセキュリティチップの初期化を行ってください。

1  をクリック

2  をクリックし、「シャットダウン」をクリック

3 本機の電源スイッチを押す

4 「**コントロール パネル (P. 9)**」を表示し、「システムとセキュリティ」→「BitLocker ドライブ暗号化」→左のメニューから「TPM の管理」をクリック

「コンピューターのトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) の管理 (ローカル コンピューター)」画面が表示されます。

5 「操作」から、「TPM をクリア」をクリック

6 「再起動」ボタンをクリック

サインアウトする旨のメッセージが表示され、自動的に再起動します。



チェック

「閉じる」をクリックする必要はありません。

これでセキュリティチップが初期化されました。

辞書攻撃防御機能

[040404-21]

パスワードで保護されたセキュリティを破るために用いられる「辞書攻撃」という手法から、本機を防御するための機能です。

WindowsのBitLocker ドライブ暗号化など、セキュリティチップに関連する機能で、誤ったパスワード入力を繰り返すと一時的にパスワードの入力ができなくなります。

再度、パスワードの入力を行うには、一定時間の経過が必要です。

なお、再度、パスワードの入力が可能になるまでの時間は、誤入力の回数によって決定され、誤入力の回数が多いほど、入力可能になるまでの時間も長くなります。

本機を修理に出した後

[040602-21]

本機を修理に出し、「マザーボード交換」や「セキュリティチップ交換」、「内蔵ストレージ交換」、「再セットアップ」等が行われた場合には、セキュリティチップの初期化を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「[セキュリティチップを初期化する \(P. 180\)](#)」をご覧ください。

便利な機能とアプリケーション

[060000-21]

➤ アプリケーションの種類と機能.	184
➤ アプリケーションのインストール.	185
➤ アプリケーションのアンインストール.	188
➤ PC設定ツール.	191
➤ Yamahaサウンド設定.	198
➤ Mic Mute Utility.	203
➤ CyberLink PowerDVD.	204
➤ CyberLink Power2Go.	207
➤ CyberLink PowerBackup.	208

アプリケーションの種類と機能

[060100-21]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションはモデルによって異なります。

標準でインストールされているアプリケーション

アプリケーション	機能
PC設定ツール (P. 191)	ECOモードの設定や切り替え、ピークシフトの設定、バッテリー・ゲージのリセット等を行う
Yamahaサウンド設定 (P. 198)	AudioEngine™の設定等を行う
Mic Mute Utility (P. 203)	マイクをオン/オフする

標準で添付されているアプリケーション

アプリケーション	機能
ハードディスクデータ消去ツール ※1	内蔵ストレージのデータを消去する

※1 機能の詳細、使用方法については『再セットアップガイド』をご覧ください。



参照

内蔵ストレージのデータ消去について

『再セットアップガイド』の「[4] 付録」-「内蔵ストレージのデータ消去」

モデルによってインストール、または添付されているアプリケーション

◆DVD-ROMドライブモデル

アプリケーション	機能
CyberLink PowerDVD (P. 204)	DVDを再生する

◆DVDスーパーマルチドライブモデル

アプリケーション	機能
CyberLink PowerDVD (P. 204)	DVDを再生する
CyberLink Power2Go (P. 207)	CD-Rなどにデータを保存する
CyberLink PowerBackup (P. 208)	ファイルをバックアップする

アプリケーションのインストール

[060200-21]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションをインストールする場合の手順を説明します。



チェック

- アプリケーションのインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でサインインして行ってください。
- アプリケーションのインストール先が、内蔵ストレージ以外のドライブになっていないか確認してください。
- 「Nxsetup.exe」を使ってインストールする際、アプリケーション名の末尾にタイプや機種情報が表示されている場合があります。
同じアプリケーションが複数表示されている場合は、アプリケーション名の末尾を確認し、お使いのモデルに当てはまるものを選択してください。
- 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。
- 再セットアップ、PCリセットおよびPCリフレッシュの後に続けてアプリケーションのインストールを行う場合は必ずWindowsの再起動後に行ってください。
- 光学ドライブが内蔵されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- アプリケーションの修復インストールはできません。
いったんアンインストールしてから、インストールし直してください。
- 本機の状態によっては、インストール後にWindowsを再起動するまでアプリケーションが使用できない場合があります。その場合は、Windowsを再起動してからアプリケーションを起動してください。
- 光学ドライブをDドライブとした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。



インストールする際に、内蔵ストレージに空き領域が足りないときは

- 空き領域のある他のドライブにインストールしてください。
- アプリケーションによっては、必要最低限の機能だけをインストールしたり、使用する機能だけを選択してインストールすることで、必要な空き容量を減らせる場合があります。

アプリケーションによってインストール方法は異なります。

アプリケーション	インストール方法
PC設定ツールUWPアプリ Yamahaサウンド設定	工場出荷状態でインストールされています。改めてインストールすることはできません。アンインストールした場合は、再セットアップが必要になります。
PC設定ツールLibrary Mic Mute Utility	工場出荷状態でインストールされています。改めてインストールする場合は「 「Nxsetup.exe」を使ってインストールする (P. 186) 」をご確認ください。
CyberLink Power2Go CyberLink PowerDVD CyberLink PowerBackup	工場出荷状態ではインストールされていません。インストール方法は「 アプリケーションのディスクからインストールする (P. 186) 」をご確認ください。

「Nxsetup.exe」を使ってインストールする

1 Windowsを起動する

2 をクリック

3 「Windows システム ツール」をクリック

4 「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥MAVP¥Nxsetup.exe

6 インストールしたいアプリケーションを選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 インストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でインストールは完了です。

アプリケーションのディスクからインストールする

インストールしたいアプリケーションによって、使用するディスク、フォルダ名、「名前」に入力するパスが異なります。

アプリケーション	ディスク	フォルダ名	入力パス
CyberLink PowerDVD	CyberLink PowerDVD ディスク	POWERDVD	D:¥POWERDVD¥Setup.exe
CyberLink Power2Go	CyberLink Power2Go ディスク	Power2Go	D:¥Power2Go¥Setup.exe
CyberLink PowerBackup	CyberLink PowerBackup ディス ク	PowerBackup	D:¥PowerBackup¥Setup.exe

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブにディスクをセットする

3 をクリック

4 「Windows システム ツール」をクリック

5 「ファイル名を指定して実行」をクリック

6 「名前」にパスを入力し、「OK」ボタンをクリック

パスは上記表の「入力パス」をご覧ください。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

7 インストールが完了したら、光学ドライブからディスクを取り出し、Windowsを再起動する

以上でインストールは完了です。

アプリケーションのアンインストール

[060300-21]

本機にインストールされているアプリケーションまたは購入後にインストールされた本機添付のアプリケーションのアンインストールの手順を説明します。アプリケーションには「デスクトップアプリ」と「ストアアプリ」があり、アンインストール方法が異なります。

ご自分でインストールされた別売のアプリケーションのアンインストールについては、そのアプリケーションに添付されたマニュアルをご覧ください。



チェック

- アプリケーションのアンインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でサインインして行ってください。
- アプリケーションをアンインストールした後に、システムの復元機能でアンインストール前の状態に復元しても、復元されたアプリケーションは正常に動作しない場合があります。また、復元されたアプリケーションを「コントロールパネル」→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」からアンインストールしても、アンインストールできない場合があります。
その場合は、そのアプリケーションのマニュアルをご覧ください。インストールの操作を行ってください。復元の状況によって、インストールもしくはアンインストールが開始されます。
アンインストールが開始されたら、画面の指示に従い、アンインストールを行ってください。インストールが開始されたら、画面の指示に従ってインストールを行い、インストール完了後にマニュアルをご覧ください。
- 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。
- アプリケーションのアンインストール中に、すでにアンインストールされている旨のメッセージが表示されることがあります。その場合でも正常にアンインストールは完了しており、動作に影響はありません。
- アプリケーションのアンインストール中に「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示されたら、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- アプリケーションのアンインストール中に「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。続行する場合は、セットアップを完了するために再起動が必要となります。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

「設定」からアンインストールする

「設定」からアンインストールできます。アプリケーション一覧の表示方法を変更できるため、目的のアプリをすばやく見つけることができます。デスクトップアプリとストアアプリの両方をアンインストールできます。

次の手順で行います。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「アプリ」をクリック

3 「アプリと機能」をクリック

4 一覧から、アンインストールしたいアプリケーションをクリック

5 「アンインストール」をクリック

6 画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を進める

以上でアンインストールは完了です。

スタートメニューからアンインストールする

スタートメニューからアンインストールできます。デスクトップアプリとストアアプリの両方をアンインストールできます。

次の手順で行います。

1 をクリック

2 アンインストールしたいアプリケーションを右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」をクリック



メモ

デスクトップアプリの場合、以降は「コントロールパネルからアンインストールする (P. 190)」の手順3から操作を行ってください。

3 画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を進める

以上でアンインストールは完了です。

スタートメニューのタイルからアンインストールする

スタートメニューのタイルに表示されているアプリケーションをアンインストールできます。

次の手順で行います。



メモ

スタートメニューのタイルにピン止めしているデスクトップアプリもアンインストールできます。

1 をクリック

2 スタートメニューのタイルから、アンインストールしたいアプリケーションを右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」をクリック



メモ

デスクトップアプリの場合、以降は「**コントロール パネルからアンインストールする (P. 190)**」の手順3から操作を行ってください。

3 画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を進める

以上でアンインストールは完了です。

コントロール パネルからアンインストールする

コントロール パネルからアンインストールできます。デスクトップアプリのみアンインストールできます。次の手順で行います。

1 「コントロール パネル (P. 9)」を表示する

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 一覧から、アンインストールしたいアプリケーションをクリック

4 メニューバーに表示される「アンインストール」、「変更」、「アンインストールと変更」のいずれかをクリック



メモ

アプリケーションによってクリックするボタン名が異なります。必要に応じて読み替えてください。

5 画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を進める

以上でアンインストールは完了です。



チェック

メニューバーに表示される「アンインストール」、または「アンインストールと変更」をクリックした後は、中断してもそのままではアプリケーションを使用できない場合があります。その際にはWindowsを再起動後、アプリケーションを使用してください。

PC設定ツール

[065300-21]

概要	191
使用上の注意	191
「ECOモード」の機能	192
「ピークシフト」の機能	193
「バッテリー」の設定	195
インストール	197
アンインストール	197

概要

バッテリーの性能診断や充電のしきい値設定、バッテリー・ゲージのリセット、ECOモード機能、ピークシフト機能に関する設定ができます。



メモ

Yamahaサウンドの設定については「[Yamahaサウンド設定 \(P. 198\)](#)」をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

各画面表示や、画面内の をクリックすることで表示されるヘルプ

起動方法

1 をクリック

2 「PC設定ツール」をクリック

3 設定や確認をしたい機能を選択する

使用上の注意

- 「PC設定ツール」は、「PC設定ツールUWPアプリ」と「PC設定ツールLibrary」で構成されています。必ずセットでご使用ください。
- 本機を起動した直後に「PC設定ツール」を起動すると、一部の機能が正しく動作しません。「PC設定ツール」は、本機を起動後数分経ってから起動してください。また、【ECO】または設定したホットキーでの電源プランの切り替えも、本機を起動後数分経ってから行ってください。
- Windowsのサインイン画面が表示されている場合、【ECO】または設定したホットキーを押しても電源プランは変更されません。
- 「PC設定ツール」を起動中にWindowsのテーマを変更すると画面の表示が正しくなくなることがあります。その場合は、「PC設定ツール」を一度終了してから、再起動してください。

- 複数の処理が行われている場合、まれに一部の画像が表示されないことがあります。通常動作には問題ありません。再度「PC設定ツール」を起動することで表示されるようになります。

「ECOモード」の機能

【ECO】を押すことで、簡単に電源プランをECOモードへ切り替えることができます。

ECOボタンの設定

【ECO】で切り替える電源プランの設定ができます。次の手順で行います。

1 「ECOボタンの設定」の「ECOモード（固定）」ではない方の電源プランを選択する

2 任意の電源プランを選択する

3 「PC設定ツール」を閉じる

以上で設定は完了です。



メモ

- 電源プランの詳細な設定や復元をしたい場合は、「電源オプションを開く」をクリックしてください。
- 初期設定に戻りたい場合は、「購入時の設定に戻す」をクリックしてください。



参照

電源オプションについて

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の設定 (P. 32)」

ホットキーの設定

【ECO】とは別に、電源プランの切り替えに使用するホットキーを1つ設定できます。次の手順で行います。



チェック

初期設定では、電源プランの切り替えに使用するホットキーは【ECO】以外に設定されていません。

1 「ホットキーの設定」にある「ホットキーの設定」から使用するホットキーを選択



メモ

「初期設定に戻す」ボタンをクリックすると、ホットキーの設定を初期設定に戻します。


以上で設定は完了です。

電源モード自動切替の設定（時間帯）

設定した時間帯に応じて、電源プランが自動的に「ECO」に切り替わるように設定することができます。次の手順で行います。

1 「電源モード自動切替の設定（時間帯）」にある「設定の有効」をオンにする

2 「開始日」「終了日」「開始時刻」「終了時刻」を設定する

それぞれの設定を保存する場合は、 をクリックしてください。

3 「PC設定ツール」を閉じる

以上で設定は完了です。



チェック

- 電源プランの切り替えには、数分かかる場合があります。
- 設定された自動切替時間帯内に手動で他の電源プランに切り替えた場合は、自動切替時間が終了しても、手動で切り替えた電源プランを継続します。

電源モード自動切替の設定（バッテリー）

指定したバッテリー残量以下になったとき、電源プランが自動的に「ECO」に切り替わるように設定することができます。次の手順で行います。

1 「電源モード自動切替の設定（バッテリー）」にある「設定の有効」をオンにする

2 「バッテリー残量」に任意の値を設定する

3 「PC設定ツール」を閉じる

以上で設定は完了です。

「ピークシフト」の機能


電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を電力消費量が少ない時間帯に移行することを、ピークシフトといいます。ピークシフト機能を有効にすると、あらかじめ設定した時間帯に自動的に本機の電源供給をACアダプタからバッテリーに切り替えることができます。この機能によって、電源需要がピークになる時間帯の電力消費量を抑えることができます。



チェック

- ピークシフト機能を使用するには、本機にACアダプタおよびバッテリーパックが接続されている必要があります。
- バッテリー・ゲージのリセット実行中は、ピークシフト機能を設定したり、有効にしたりすることはできません。

ピークシフト機能の使用上の注意

画面内の  をクリックすると、ヘルプが表示されます。ヘルプ内の「注意事項」をご覧ください。

ピークシフト機能の設定

ピークシフト機能の設定は、次の手順で行います。



メモ

- 「現在の設定」欄で、設定状況を確認することができます。
- ピークシフト実施中に設定を変更すると、確認のメッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」をクリックしてください。

1 「ピークシフトを有効にする」をオンにする

2 「開始日」「終了日」を設定する


それぞれの設定を保存する場合は、 をクリックしてください。

3 「設定を変更する」をクリックして、時刻等の詳細を設定する

設定しない場合は、手順5に進んでください。

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
バッテリー駆動に切り換える時間を設定する	開始時刻、終了時刻を指定してピークシフト機能を使用します。終了時刻は、「バッテリーへの充電を控える時間を設定する」で設定している時間帯の範囲内で設定してください。
AC駆動に切り換えるバッテリー残量を設定する	ピークシフト実施中に、バッテリー駆動からAC電源（ACアダプタ）による駆動に切り換えるバッテリーの残容量を10%～100%の間で設定します。
バッテリー駆動する開始時間をランダムに分散させる。	チェックを付けると、バッテリー駆動を開始/終了する時間を分散させます。 <div data-bbox="564 1877 644 1957" data-label="Image"></div> チェック 終了時間の分散により設定画面で設定した終了時間を越えることがあります。

バッテリーへの充電を控える時間を設定する	設定した時間帯はバッテリー充電を行いません。 開始時刻はバッテリー駆動開始時刻と同じ時刻です。
スリープ、電源オフ中に、AC電源からバッテリーへ充電を行わない。	チェックを付けると、本機がスリープ状態や休止状態、電源オフになった時点からバッテリーの充電を行いません。 <div style="background-color: #ffffcc; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> チェック</p> <p>チェックを付けても、「バッテリーへの充電を控える時間を設定する」で設定している終了時刻ちょうどに電源を切ったり、スリープ状態や休止状態に移行したりすると、終了時刻を過ぎても充電されません。</p> </div>
設定変更には管理者権限が必要	チェックを付けると、管理者（Administrator）権限を持つユーザーのみが、ピークシフト機能の設定を変更できるようになります。

4 「OK」をクリック

設定が保存され、元の画面に戻ります。

5 「PC設定ツール」を閉じる


以上で設定は完了です。



ピークシフト機能の動作状況の確認

ピークシフト機能の動作状況は、タスクバーの通知領域に表示されるアイコンで確認できます。このアイコンはピークシフトを実施する時間になると表示され、以下に説明する状態を表します。



メモ

タスクバーの通知領域にアイコンが表示されていない場合は、をクリックしてください。

通知領域のアイコン	説明
	ピークシフトが実施され、本機がバッテリー駆動で動作しています。
	本機がACアダプタからの電源供給で動作しています。バッテリー残量の低下やバッテリー未装着などの場合に表示されます。



チェック

ピークシフトの開始または終了後、通知領域の電源アイコン表示の状態はすぐに変更されない場合があります。ピークシフトは指定時間に開始または終了していますので、そのまま使用いただいて問題ありません。

「バッテリー」の設定

バッテリーの状態の確認や、バッテリー・ゲージのリセットを行うことができます。

バッテリー状態

現在のバッテリーの残量やバッテリーの状態が表示されています。

「バッテリーの詳細を表示」をクリックすると、バッテリーの詳細情報を確認できます。



チェック

- バッテリー状態に「！」のアイコンが表示された場合、早めにバッテリーパックを交換することをおすすめします。また、「×」アイコンが表示された場合は、バッテリーパックの交換が必要です。
- 「バッテリーの詳細」で「完全充電時の容量」の項目に「？」が表示された場合、長期間の使用による劣化を抑えるために、バッテリーの使用状況に応じて充電電圧と容量を自動的に調整している状態になっています。「？」をクリックすると、詳細を確認できます。
- バッテリー状態で表示される時間（残り時間、完全充電までの時間）については予測値であり、正確な時間であることを保証するものではありません。
また、Windows上の表示時間とは予測方法が異なり、時間が一致しない場合があります。



メモ

現在のバッテリー残量やバッテリーの状態が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

バッテリー充電のしきい値

ACアダプタ接続時の充電のしきい値を、100%より下に設定できます。この設定により、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

設定を行う場合は、次の手順で行います。

1 「バッテリー充電のしきい値」をオンにする

確認の画面が表示されます。

2 「有効にする」をクリック

3 表示される項目について、任意の値を設定する

充電を開始する値など、画面表示に従ってそれぞれ設定してください。

4 「PC設定ツール」を閉じる



メモ

設定したしきい値以下までバッテリーを放電すると、設定が有効になります。ACアダプタが接続されている場合は取り外し、バッテリー残量が設定したしきい値以下になるまで放電してください。

以上で設定は完了です。

バッテリー・ゲージのリセット

バッテリー・ゲージのリセットを行うことで、バッテリー性能の回復や、表示されるバッテリー残量と実際の動作時間の誤差を解消することができます。次の手順で行います。



チェック

- バッテリー・ゲージのリセットを行う際は、ACアダプタおよびバッテリーパックを接続してください。また、バッテリー・ゲージのリセット中は、ACアダプタおよびバッテリーパックを取り外さないでください。
- バッテリー・ゲージのリセットを行う前に、必ずピークシフト機能を無効にしてください。また、バッテリー・ゲージのリセット実行中は、ピークシフト機能を有効にしないでください。詳しくは、「[「ピークシフト」の機能 \(P. 193\)](#)」をご覧ください。

1 「バッテリー・ゲージのリセット」にある「リセット」をクリック

確認の画面が表示されます。

2 内容を確認し、「続行」をクリック

バッテリー・ゲージのリセットが開始されます。

これ以降は画面の指示に従って操作してください。

インストール

インストールする場合は、「[アプリケーションのインストール \(P. 185\)](#)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「[アプリケーションのアンインストール \(P. 188\)](#)」を参照してください。

Yamahaサウンド設定

[065500-21]

概要	198
「Speaker」タブ	199
「Headphone」タブ	199
「Meeting」タブ	199
インストール	202
アンインストール	202

概要

AudioEngine™により、様々な種類のコンテンツに最適な音響効果を設定して、自然でクリアなサウンド空間を楽しむことができます。




チェック

AudioEngine™は、内蔵スピーカー、内蔵マイクおよびヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続された機器向けの機能です。USBオーディオデバイスやHDMI接続したディスプレイのスピーカーなど、他の方法で接続された機器では使用できません。

これらの機器を接続している場合は、本体内蔵のデバイス、またはヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続された機器を「既定のデバイス」に設定してください。



メモ


【/F5】を押すことで、ミーティング機能を簡単に切り替えられます。



参照

- キーの使い方について
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 53)」
- 既定のデバイスの変更方法
「サウンド機能」の「音声の入出力先を変更する (P. 106)」

●機能の詳細や操作方法

各画面表示や、画面内の  をクリックすることで表示されるヘルプ

起動方法

1  をクリック

2 「Yamahaサウンド設定」をクリック




メモ

「PC設定ツール (P. 191)」のメニュー画面から「Yamahaサウンド」を選択することでも、「Yamahaサウンド設定」を起動することができます。


「Speaker」タブ

内蔵スピーカーのAudioEngine™機能を設定できます。

機能	説明
AudioEngine™のオン/オフ	現在選択しているスピーカーの、AudioEngine™機能のオン/オフを「  」で切り換えることができます。
プリセットの選択	コンテンツごとにあらかじめ設定されている、最適な音響設定（プリセット）を選択できます。プリセットは「Music」、「TV」、「Cinema」、「Live」、「Sports」から選択できます。 調整バーをスライドすることで、より細かく音響効果を調整することもできます。

「Headphone」タブ

ヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャック端子に接続された機器の、AudioEngine™機能を設定できます。

機能	説明
AudioEngine™のオン/オフ	現在選択しているヘッドフォンの、AudioEngine™機能のオン/オフを「  」で切り換えることができます。
プリセットの選択	コンテンツごとにあらかじめ設定されている、最適な音響設定（プリセット）を選択できます。プリセット選択後、それぞれの調整バーをスライドすることで、より細かく音響効果を調整することもできます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「On-Ear」 / 「In-Ear」 「On-Ear」または「In-Ear」を選択した場合、プリセットは「Music」、「TV」、「Cinema」、「Live」、「Sports」から選択できます。 ● 「ISP」 (Imaginary Speaker) 「ISP」を選択すると、ステレオスピーカーの前で聞くような左右の音が自然に混ざり合った音を、ヘッドフォンで体験できます。プリセットは「Private room」、「Living room」から選択できます。

「Meeting」タブ

内蔵スピーカーやヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続された機器、および内蔵マイクを、オンライン会議に適した設定に切り替えることができます（ミーティング機能）。

ミーティング機能を十分に活用するために、オンライン会議アプリのオーディオデバイス（スピーカーおよびマイク）は「ライン (Yamaha Audio Relay)」に設定してください。これによりタイピング音や周囲の音の抑制機能が使用できます。また、オンライン会議アプリを使用しているときに内蔵マイクでのノイズサプレッサーが有効になります。



チェック

- 「ライン (Yamaha Audio Relay)」を使用せずに内蔵マイクでオンライン会議や録音を行うときに、ノイズサプレッサーを使用したい場合は、タイピング音抑制機能の設定をオフにしてご使用ください。
- オンライン会議アプリ以外では、入出力デバイスを「ライン (Yamaha Audio Relay)」に設定しないでください。



メモ

音声の入出力で使用するデバイス（内蔵スピーカーやヘッドフォンなど）は、既定のデバイスに設定するか、「サウンドデバイス」で設定してください。



参照

既定のデバイスの設定方法


「サウンド機能」の「音声の入出力先を変更する (P. 106)」

設定項目	説明
OFF	ミーティング機能をオフにします。
パーソナル	一人でオンライン会議に参加する場合に適した設定です。 この設定は、内蔵スピーカーを出力の「既定のデバイス」に設定している場合のみ使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ヘッドセットを使用しなくても、相手の声が聞こえやすくなります。 ● 内蔵マイクを入力「既定のデバイス」に設定している場合に、入力音声に含まれるノイズやタイピング音、周囲からの音声を抑えます。
マルチユーザー	複数人でオンライン会議に参加する場合に適した設定です。 この設定は、内蔵スピーカーを出力の「既定のデバイス」に設定している場合のみ使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 正面以外の位置でも、相手の声が聞こえやすくなります。 ● 内蔵マイクを入力「既定のデバイス」に設定している場合に、入力音声に含まれるノイズやタイピング音を抑えます。
ヘッドフォン	ヘッドフォン/ヘッドセットを使用して電話会議に参加する場合に適した設定です。 この設定は、コンピューターのヘッドフォン/ヘッドフォンマイクジャック端子に接続したヘッドフォン/ヘッドセットを出力の「既定のデバイス」に設定している場合のみ使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ヘッドフォン/ヘッドセット使用時に、相手の声が聞こえやすくなります。 ● 内蔵マイクを入力「既定のデバイス」に設定している場合に、入力音声に含まれるノイズやタイピング音、周囲からの音声を抑えます。

「ミーティング機能詳細設定」

下記項目はミーティング機能がオンの時に効果が有効になります。

設定項目	説明
------	----

スピーカー／ヘッドフォン	
スピーカーやヘッドフォンから聞こえる相手の声を聞きやすい音量に揃えます。	相手の声に合わせて音量自動調整機能を設定します。この機能をオンにすると、相手の声の大きさが小さい場合に、自動的に聞きやすい音量まで大きくします。この機能はミーティング機能をオンにしている場合にのみ有効となります。
声が響きやすい場所で残響を抑える機能を有効にします。	ルームエコー抑制機能を設定します。この機能をオンにすると、内蔵スピーカーから再生する声の残響を抑えることができます。この機能はミーティング機能をオンにしている場合にのみ有効となります。
マイク	
キーボードのタイピング音やコンピュータの周囲の音を抑え、正面の話者の声を相手に届けます。	<p>タイピング音抑制、および周囲の音の抑制機能を設定します。この機能をオンにすると、内蔵マイク使用時にノイズサプレッサーの効果に加えて、キーボードのタイピング音およびコンピューターの周囲の音（横方向からの音）を抑えることができます。</p> <p>この機能は、オンライン会議アプリの入出力デバイスを「ライン (Yamaha Audio Relay)」に設定している場合のみ使用できます。</p> <p>また、周囲の音の抑制は、ミーティング機能が「パーソナル」または「ヘッドフォン」の場合のみ動作します。「マルチユーザー」の場合は、周囲の音の抑制は動作せず、タイピング音抑制のみが動作します。</p> <div style="background-color: #ffffcc; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キーボードの打ち方や種類、周囲の音の大きさなど、お使いの環境によっては、効果を感じにくい場合があります。 ● 相手側で音声聞き取りづらい場合は、本機能をオフにする事で改善する場合があります。また、その他の方法でも解決する場合があります。「トラブル事例集」の「オンライン会議アプリ使用時に、相手側で自分の音声聞き取りづらい (P. 212)」を参照してください。 ● 本機能を使用するときは、内蔵マイクを「既定のデバイス」に設定してください。 </div>
サウンドデバイス	<p>オンライン会議アプリのオーディオデバイスを「ライン (Yamaha Audio Relay)」に設定したときに音声の入出力で使用するデバイス（内蔵スピーカーやヘッドフォンなど）を設定します。「出力に既定のデバイスを使用します。」と「入力に既定のデバイスを使用します。」をオンにすると、既定のデバイスを使用できます。</p> <p>オンライン会議アプリ使用時に既定のデバイス以外のオーディオデバイスをご利用になりたい場合は、「出力に既定のデバイスを使用します。」または「入力に既定のデバイスを使用します。」をオフにして、任意のデバイスを選択してください。</p>
その他	<p>コンピューターを終了またはスリープ状態にしたらミーティング機能を自動的に終了します。</p> <p>ミーティング機能自動オフ機能を設定します。この機能をオンにすると、コンピューターを終了するかスリープ状態に移行した場合に、ミーティング機能を自動的に終了します。工場出荷時はオフになっています。</p>



チェック

オンラインミーティングを常時使用する場合は、オフにします。これにより、コンピューターを終了したり、スリープ状態に移行したりしても、ミーティング機能がオンのままになります。



チェック

- ミーティング機能が「OFF」以外の場合、AudioEngine™はオフになり、「Speaker」タブおよび「Headphone」タブの機能は使用できません。
AudioEngine™をオンにすると、ミーティング機能はオフになります。
- 「コンピューターを終了またはスリープ状態にしたらミーティング機能を自動的に終了します。」をオンにしている場合、スリープ状態に入ってからすぐにコンピューターを復帰させると、ミーティング機能が自動的に終了していない場合があります。
- 「スピーカーやヘッドフォンから聞こえる相手の声を聞きやすい音量に揃えます。」をオンにしている場合、ノイズが多い環境などで相手が話をしていなくても音量が大きくなり、聞きづらくなる場合があります。
そのような場合は、本設定項目をオフにしてミーティング機能をご使用ください。
- プリセット変更時、切り替えが完了し動作するまでに時間がかかる場合があります。
サウンドの省電力機能を無効にすることで改善する場合があります。
詳しくは「[サウンドの省電力機能 \(P. 102\)](#)」をご覧ください。

インストール

インストールする場合は、「[アプリケーションのインストール \(P. 185\)](#)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「[アプリケーションのアンインストール \(P. 188\)](#)」を参照してください。

Mic Mute Utility


[065400-21]

概要.....	203
インストール.....	203
アンインストール.....	203

概要

マイクのオン/オフを切り替えるためのツールです。

●操作方法

【/F4】を押す



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 53)」

インストール

インストールする場合は、「[アプリケーションのインストール \(P. 185\)](#)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「[アプリケーションのアンインストール \(P. 188\)](#)」を参照してください。

概要	204
使用上の注意	204
インストール	206
アンインストール	206

概要

DVDを再生することができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

CyberLink PowerDVDのヘルプ



チェック

- CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioの再生はサポートしていません。
- 本機では、リージョンコード（国別地域番号）が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。

起動方法

1 をクリック

2 起動するアプリケーションをクリック

アプリケーションと同じ名前のフォルダが表示された場合はフォルダをクリックし、アプリケーションをクリックしてください。

使用上の注意

- CyberLink PowerDVDの起動中は、次のことに注意してください。
 - 他のソフトを起動しないでください。コマ落ちが発生する場合があります。
 - ソフトによっては（同じように映像を表示するタイプのソフトなど）、他のソフトが起動できないことがあります。
 - 再生中は省電力状態（スリープや休止状態）へ移行しないようになっています。電源スイッチやスタートメニューなどを使って強制的にスリープや休止状態にしないでください。
- CyberLink PowerDVDを起動中に解像度/表示色/表示するディスプレイ/マルチディスプレイ環境時のモニタ位置の変更などを行わないでください。
- 著作権保護されたコンテンツを再生する場合、HDMIコネクタなどのデジタル接続コネクタにHDCP対応ディスプレイを接続して使用することをおすすめします。アナログRGBコネクタにディスプレイを接続した環境の場合、環境によっては著作権保護されたコンテンツを再生できない場合があります。

- 外部ディスプレイに画面を拡張しているときにディスクを再生すると、プライマリに設定されているデバイスのみに表示される場合があります。
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイでは、著作権保護された映像をデジタル出力できません。
- 画面回転機能使用時、画面の向きによっては再生をサポートしていない場合があります。
- スナップ機能をご利用の場合、デスクトップ画面のサイズによっては、CyberLink PowerDVDの一部の機能が使用できない場合があります。CyberLink PowerDVDをご使用になる場合は、デスクトップを全画面表示にしてください。
- 電源プランを「ECO」にすると、CyberLink PowerDVDは正常に動作しない可能性があります。その場合は電源プランを「標準」に変更してください。
- お使いの外部ディスプレイによっては、CyberLink PowerDVDのフルスクリーン表示時に再生画面が画面サイズに収まりきらなかったり、画面サイズより小さく表示される場合があります。このような場合は、次の手順でディスプレイの設定を変更してください。

1 「設定 (P. 9)」を表示する

2 「システム」をクリック

3 「ディスプレイ」をクリック

4 「テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更する」欄で推奨値を選択する

5 「一部のアプリは、閉じてもう一度開くまで、拡大縮小の変更に応答しません。」と表示されたら、CyberLink PowerDVDを再起動する

- DVD再生開始時やDVDディスク内タイトルの切り替え時に時間がかかることがあります。
- ビットレートの高い映像では、スムーズな再生品質を得られない場合があります。
- DVDコンテンツの作り方により、メニュー等でマウス選択できない場合があります。
- DVDタイトルの中には、DVD再生用アプリケーションを含んだものがありますが、インストールする必要はありません。
- ディスク再生時にACアダプタを接続した状態で使用することをおすすめします。
- CyberLink PowerDVD でディスクが認識しない場合は、次のような原因が考えられます。

<ディスクの確認>

- 記録面に傷や指紋などの汚れがついている
ディスクに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かって拭いてから使用してください。
- ディスクが光学ドライブに正しくセットされていない
セットされているディスクの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイの中心に、きちんとセットしてください。
- 書き込みに失敗したディスク
書き込みに失敗したディスクは読み込めない場合があります。
- ファイナライズされていないディスク
デジタルビデオカメラや、ライティングソフトで作成した場合、ファイナライズを行わないと、光学ドライブで読

めない場合があります。

- 映像データファイルを記録したディスク
CyberLink PowerDVDはファイル再生には対応しておりません。
他の映像再生アプリケーション（Windows Media Playerなど）をご利用ください（その場合には、他社・コミュニティなどが用意するコーデックが必要になることがあります）。
- ディスクの劣化
記録ディスクの品質により、経年劣化、光劣化などを起こすことがあります。
ディスクを交換して試してみてください。

<ディスクの規格の確認>

AVCREC、AVCHD、ブルーレイディスクを再生させようとした可能性があります。
使用できるディスクについては、下記のアドレスから「光学ドライブ仕様一覧」にアクセスし、お使いの機種をご覧ください。

https://jpn.nec.com/products/bizpc/info/pc/drive_spec.html

<光学ドライブの確認>

- 光学ドライブの読み取りレンズが汚れているため読み取り不良になる
ほこりや油膜などによりレンズが汚れていると、読み込みに失敗したり、読み込み時間が長くなったりすることがあります。
レンズクリーナーでレンズをクリーニングしてください。
- 光学ドライブが、使用可能ハードウェアとして認識されていない
BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で周辺機器の使用を制限することができます。
光学ドライブを使用不可に設定していないか確認してください。

インストール

インストールする場合は、「アプリケーションのインストール (P. 185)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「アプリケーションのアンインストール (P. 188)」を参照してください。



チェック

アンインストール中に「PowerDVD の個人設定を保持しますか？」と表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

▶ 概要.....	207
▶ 使用上の注意.....	207
▶ インストール.....	207
▶ アンインストール.....	207

概要

CyberLink Power2Go は、すべてのドライブおよびディスク (CD、DVDなど) に対応するコンピューター向けのオールメディア ライティング ソフトです。

CyberLink Power2Go を使うと、データ ディスクやミュージック ディスクなどの作成、書き込みができます。ディスクユーティリティーを使ってディスクを消去、コピーすることもできます。

●機能の詳細や操作方法

CyberLink Power2Goのヘルプ

起動方法

1 をクリック

2 起動するアプリケーションをクリック

アプリケーションと同じ名前のフォルダが表示された場合はフォルダをクリックし、アプリケーションをクリックしてください。

使用上の注意

- 媒体に傷が付いていたり、誤ってデータを削除してしまうと、データの復旧ができません。重要なデータは必ずバックアップを取るようしてください。
- 書き込みまたはフォーマットを行っている際に表示される進捗状況バー、および推定残り時間は、実際の処理と合わない場合がありますが動作に影響はありません。

インストール

インストールする場合は、「[アプリケーションのインストール \(P. 185\)](#)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「[アプリケーションのアンインストール \(P. 188\)](#)」を参照してください。

CyberLink PowerBackup

[064400-01]

概要	208
使用上の注意	208
インストール	208
アンインストール	208

概要

CyberLink PowerBackup は、ローカルディスクにあるデータをDVD等の外部メディアにバックアップできるバックアップソフトウェアです。

●機能の詳細や操作方法

CyberLink PowerBackupのヘルプ

起動方法

1 をクリック

2 起動するアプリケーションをクリック

アプリケーションと同じ名前のフォルダが表示された場合はフォルダをクリックし、アプリケーションをクリックしてください。

使用上の注意

- ヘルプは多重起動できます。
- ネットワークに接続していない状態で、アップグレードボタンを押しても反応しません。

インストール

インストールする場合は、「[アプリケーションのインストール \(P. 185\)](#)」を参照してください。

アンインストール

アンインストールする場合は、「[アプリケーションのアンインストール \(P. 188\)](#)」を参照してください。

トラブル解決Q&A

[100000-21]

- ▶ はじめにお読みください..... 210
- ▶ トラブル事例集..... 211

はじめにお読みください

[100101-01]



メモ

お使いのアプリケーションや、本体に接続した周辺機器に何らかのトラブルが生じた場合は、それぞれに添付されているマニュアルをご確認の上、製造元やご購入元にお問い合わせください。

困ったときの基本的な対応方法



『活用ガイド』を検索する

当てはまる事例がないか、『活用ガイド』で探してみてください。

- 「トラブル事例集 (P. 211)」で、該当する事例を探す
- 検索ウィンドウにキーワードを入力して、マニュアル内を全文検索する

NEC LAVIE公式サイトの「サービス&サポート」で検索する

『活用ガイド』に、該当する事例または解決法が見当たらなかった場合は、「サービス&サポート」で、トラブル事例を探してみてください。

121コンタクトセンター（サポート窓口）に相談する

NEC LAVIE公式サイトの「サービス&サポート」でも、該当する事例または解決法が見当たらず、どうしても解決できないときは、121コンタクトセンターにご相談ください。

- Webチャットで相談
- LINEチャットで相談
- お電話で相談

※Web/LINEチャットの有人対応とお電話によるご相談には、NEC LAVIE公式サイト（マイページ）のお客様登録が必要です。

バッテリー

Question	Answer
本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない	<ul style="list-style-type: none">● バッテリーが正しく認識されていない可能性があります。 「高速スタートアップ」の機能を無効にしてから、バッテリーパックを取り付け直してみてください。 → 「「高速スタートアップ」について (P. 24)」● バッテリー充電ランプを確認してください。 → 「バッテリー充電ランプ (P. 20)」
満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する	故障ではありません。 バッテリーは少しずつ自然放電しているため、それを補充するため、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しているときは自動的に充電が始まります。

表示

Question	Answer
デスクトップ上のアイコンの名前が隠れてしまう	「アイコンの自動整列」を有効にしてください。 → 「 アイコンの名前が隠れてしまうときは (P. 67) 」

LAN機能

Question	Answer
動作が不安定になった	<ul style="list-style-type: none">● LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にしないでください。 → 「使用上の注意 (P. 110)」● 省電力型イーサネット機能に対応したハブやルーターとLAN接続した場合、ネットワークの通信速度が遅い、またはネットワークの動作が不安定になることがあります。 → 「LANへの接続 (P. 111)」
インターネットに接続できない、もしくはインターネットに接続されるのが遅い	通知領域にあるインターネットアイコンを右クリックし、「問題のトラブルシューティング」をクリックします。以降は画面の指示に従って操作を行い、見つかった問題に対応してください。 操作を繰り返すことで、問題を解決できることがあります。

サウンド

Question	Answer
接続した外部ディスプレイから音声が出力されない	<ul style="list-style-type: none">● 映像が正しく表示されているか確認してください。 →「HDMIコネクタへの接続 (P. 74)」● 接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認してください。 →「接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認するには (P. 74)」● 音声の出力設定を確認してください。 →「外部ディスプレイ接続時の音声出力について (P. 74)」● I/O制限で、外部ディスプレイコネクタの接続を使用不可に設定していないか確認してください。 →「セキュリティ機能」 - 「I/O制限 (P. 162)」
オンライン会議アプリ使用時に、相手側で自分の音声が聞き取りづらい	<ul style="list-style-type: none">● 既定のデバイスが正しく設定されているか確認してください。 →「音声の入出力先を変更する (P. 106)」● 「Yamahaサウンド設定」でミーティング機能をご利用の場合、オンライン会議アプリで使用するデバイスが正しく設定されているか確認してください。 →「Yamahaサウンド設定 (P. 198)」● オンライン会議アプリのノイズ抑制機能をオフにすることで改善する場合があります。● 「Yamahaサウンド設定」でミーティング機能をご利用の場合、「キーボードのタイピング音やコンピュータの周囲の音を抑え、正面の話者の声を相手に届けます。」をオフにする事で改善する場合があります。 →「Yamahaサウンド設定 (P. 198)」● 上記を試しても改善しない場合、「Yamahaサウンド設定」のミーティング機能をオフにしてください。 →「Yamahaサウンド設定 (P. 198)」

周辺機器


Question	Answer
周辺機器が認識されない	<ul style="list-style-type: none">● 「高速スタートアップ」の機能を無効にしてから、お使いの周辺機器を取り付け直してみてください。 →「「高速スタートアップ」について (P. 24)」● 周辺機器の使用を制限していないか確認してください。 →「セキュリティ機能」 - 「I/O制限 (P. 162)」
ドライブ文字がおかしい	周辺機器を接続したままスリープ状態や休止状態にすると、光学ドライブのドライブ文字が変更される場合があります

ます。
そのような場合は、Windowsを再起動してみてください。

アプリケーション

Question	Answer
アプリケーションをインストールできない	<ul style="list-style-type: none">● 本機のドライブで使用できるディスクか確認してください。 →「使用できるディスク (P. 91)」● 本機のドライブに、ディスクが正しく設定されているか確認してください。● インストール時の注意事項を確認してください。 →「アプリケーションのインストール (P. 185)」

その他

Question	Answer
クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった	<p>異物が入り込んでしまった場合は、すぐに電源を切ってACアダプタとバッテリーパックを取り外し、ご購入元にお問い合わせください。</p> <div style="background-color: #ffffcc; padding: 5px;"><p> チェック そのままお使いになると、発煙、発火や故障の原因になります。</p></div>
飲み物をこぼしてしまった	<p>液体をこぼした場合は、すぐにシャットダウンしてください。</p> <p>液体をこぼしても水滴の内部浸入を遅らせ、安全にシャットダウンできる時間を確保できる防滴構造になっていますが、本体内部への防水を保証するものではありません。シャットダウン後、点検と修理（有償）が必要となります。</p>

▶ 仕様一覧.....	215
-------------	-----

仕様一覧

[130100-00]

本機の仕様に関する詳細情報は、「仕様一覧」に記載しております。

「PC検索システム」の「型番直接指定検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<https://www.bizpc.nec.co.jp/bangai/pcseek/>

活用ガイド

タイプVX

初版 2023年10月

©NEC Personal Computers, Ltd. 2023

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
